

# 「茅野市のDX」のススメ方

—茅野市DX基本計画—



2025年4月

第1章	茅野市におけるDXとは	6
第2章	DXで目指す社会・大切にすること	12
第3章	DXの基本となる手法	17
	第1項 デジタルインフラの構築と活用	18
	第2項 くらしや仕事の見直し(アナログの再構築)	21
第4章	推進体制(誰が進めるのか)	23
第5章	DXを市民とともに進めていくための4つの柱	28
	第1項 原則とルール	30
	第2項 意見の反映・参加の促進	32
	第3項 学びの場の提供	38
	第4項 データ連携(データが繋がる仕組み)	43
第6章	DX事業の展開方法	47
資料編		60
用語集		76



# DXによる豊かな社会づくりに向けて

近年、社会の変化や技術の進展に伴い、生活者の価値観は個別化・多様化しており、生活者と直接接する機会の多い基礎自治体では新たな対応が求められています。特に、情報通信技術(ICT)、モノのインターネット(IoT)、人工知能(AI)、ビッグデータ分析、ロボットによる業務自動化(RPA)、クラウド・コンピューティング、仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、複合現実(MR)等のデジタル技術の進展は目覚ましく、それらを活用したデジタル・トランスフォーメーション(DX)が進められています。トランスフォーメーションとは変革を意味しますので、DXで最も重要なのは何を変革するかです。そして、変革したあとの姿をイメージできるようにすることも大切です。

身近なところで一例を挙げますと、電気使用量を計測するスマートメーターがあります。このメーターには、通信機能があるので、電気使用量データを通信により送信できます。そのため、電力会社にとっては、人件費や検針業務の負担軽減につながっています。また、各家庭にとっても電力使用量の見える化ができ、具体的な省エネにつながっています。さらに、遠隔で暮らす家族の電気使用量から異変を察知することができ、見守りにも役立てられます。

このように、我々の身の回りでは、徐々にDX化が進展していますが、茅野市民が心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができるようにDX化を進めるのがDX基本計画です。地域の様々な団体の代表者からなるDX推進協議会では、DX事業化の判断に当たっては、生活者の価値を第一に考え、多様な視点からの意見を参考にしていきますので、皆さま方のご協力をお願い申し上げます。

茅野市DX推進協議会 会長 濱田 州博  
(公立諏訪東京理科大学学長)





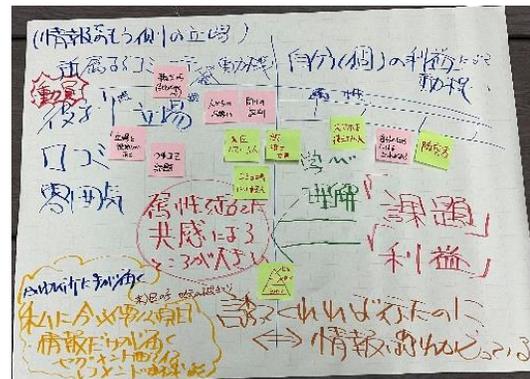
# 市民目線のDXを進めるために

私が就職した頃はファックスが世の中に出てきたばかりで、様々な資料が届く手段はほぼ郵便でした。ところがあつという間にファックスが普及して資料がファックスで届くことが日常になったと思っているうちに、パソコンの普及が進みメールに資料が添付されて届くようになりました。

便利さを知らないうちは郵便以外で資料を送ることに抵抗感がありましたが、今ではメールで資料を送ることが当たり前になり、更にSNSなどの新たなツールがメールにとって代わることも起きております。便利なツールが出てくるたびに、私は今知っていること以外は何も知らなかったことを実感しています。

だからこそ“DX”という聞き慣れない言葉を戸惑うことなく、「便利な新しいツールが出てきたようだ！」と茅野市に住む様々な皆さまが先ずは興味を持てるよう、DX基本計画策定に携わってきました。これからも市民の一人として私たちの生活が安全安心そして快適になるDXの取組に寄与してまいります。

茅野市DX外部評価委員会 委員長 百瀬 真希



## DX基本計画策定に携わって(委員の皆さんからのコメント)

この計画は、私たち市民と行政の皆さんとで互いに知恵を出しあい、時間をかけて工夫をかさね、一喜一憂しながら形にした、手作りの計画です。暮らしについて考えなおす、はじめの一步になったら嬉しいです。

人口が減少し、労働人口も減っていくこれからの世界で、人間がやらなくていいことは機械(デジタル)に任せていくことが必須になっていくと思います。まちの明るい未来のために良い形でデジタルを活用していければと思います。

「デジタル=難しい・怖い」と感じている方もいらっしゃるかと思います。みんなが安心して使えるように、そして使いたくなるように、市民も参加しながら更新していけるツールになるよう取り組みました。市民の皆さまと共により便利な茅野市にしていけたらと思います！

医療や防災の質が向上し、日常生活がより便利で安全になることを期待します。特に、少子高齢化が進む中、DXを活用して、より効率的な社会を築ければいいですね。

DXと聞くとペーパーレスや経費削減などの効率化を連想するかもしれませんが、茅野市は「市民一人ひとりが心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができる」を目的としています。みんなで取り組める計画となることを願っています。

「DX」が暮らしの中で困っていることに臨機応変に対応できるお助けツールであり、誰もが幸せを感じて過ごせる茅野市になるよう願っています。

昔、テレビ・冷蔵庫・洗濯機が家に来たときの衝撃みたいに、DXで暮らしがぐっと便利になる時代が来るかもしれません。茅野市は本気でそれを実現しようとしています。自然の豊かさを大切にしながら、みんなでアイデアを出し合い、便利で暮らしやすい茅野市を作っていきましょう！

私たちの暮らしが少しでも便利になるDX、今よりもゆとりある暮らしになるようなDX。そんなDXにみんなで取り組んでいけることを楽しみにしています。

# ゆとりある全体最適な茅野市を目指して

我が国は、これまで経験をしたことがない人口減少局面を迎え、茅野市においても、区・自治会の役員や各種産業の担い手確保の問題だけでなく、今後の医療・福祉体制の維持や公共施設のあり方について再考が必要となるなど、社会機能の各方面にその影響や懸念が生まれてきています。一方で、益々情報化やグローバル化が進み、社会が複雑化する中、これまでのサービス水準を落とすことなく、より良い市民生活を維持していくためには、市民一人ひとりの負担や課題を適切に「緩和」とするとともに、時代の変化に的確に「適応」していかなければなりません。

そのための有効な手段の一つとして、デジタル技術と規制緩和を活用できないかとの思いから、令和3年には、国のデジタル田園都市国家構想に基づく「スーパーシティ」にチャレンジしました。その結果、デジタル田園健康特区に指定されることとなり、同時に、令和4年度を当市の「DX元年」として、本格的なDX戦略をスタートすべく、当市のDXは「市民一人ひとりが心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができる」よう活用していくことを定めた「茅野市DX基本構想」を策定いたしました。

当「DX基本計画」は、これを受け、茅野市が「人を中心とした」「ゆとりと全体最適を生み出すまち」となるよう、DXを一つの手段として市民の皆さんと共に地域課題の解決に取り組むための具体的な手順を定めました。なにぶん国内に前例のない計画でしたので、DX外部評価委員会やDX推進協議会の皆さんには困難な議論を実に一年半にわたり重ねていただきました。改めてここに感謝申し上げます。

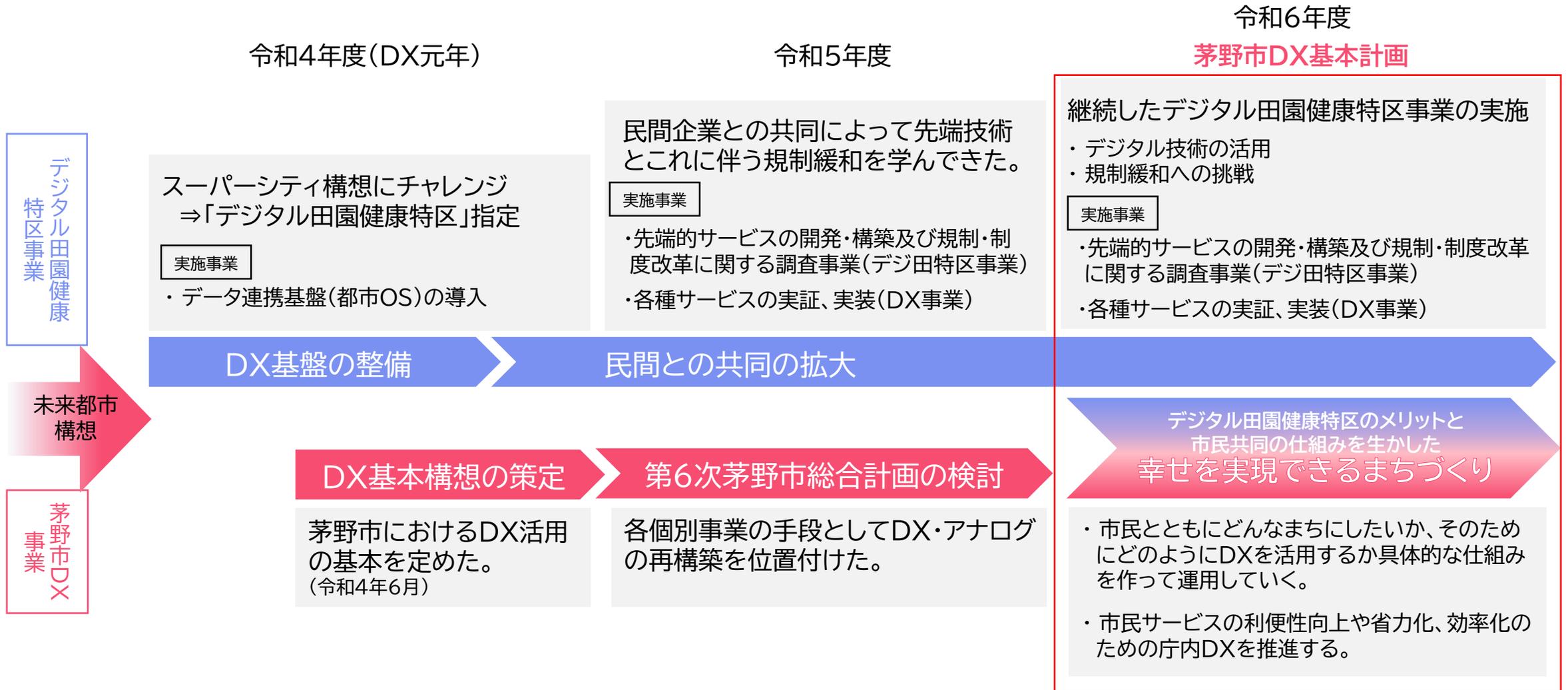
茅野市版DXは、茅野市の伝統的な「ゆい」に育まれた人と人との繋がりや、人の手の温かさが必要な部分はしっかりと残しながら、第6次茅野市総合計画が目指す「幸せを実現できるまち」を創造する、人を中心にしたDXです。市民の皆さん、そして茅野市に関わる多くの皆様とともに茅野市版DXに取り組むことで、人と情報やサービスが繋がり、限られた資源や時間が有効に活用され、様々な交流が生まれるまちづくりを実現してまいります。

令和7年(2025年)4月  
茅野市長 今井 敦





# 「幸せを実現できるまち」に向けたDXの取組経過





# 第1章

## 茅野市におけるDXとは

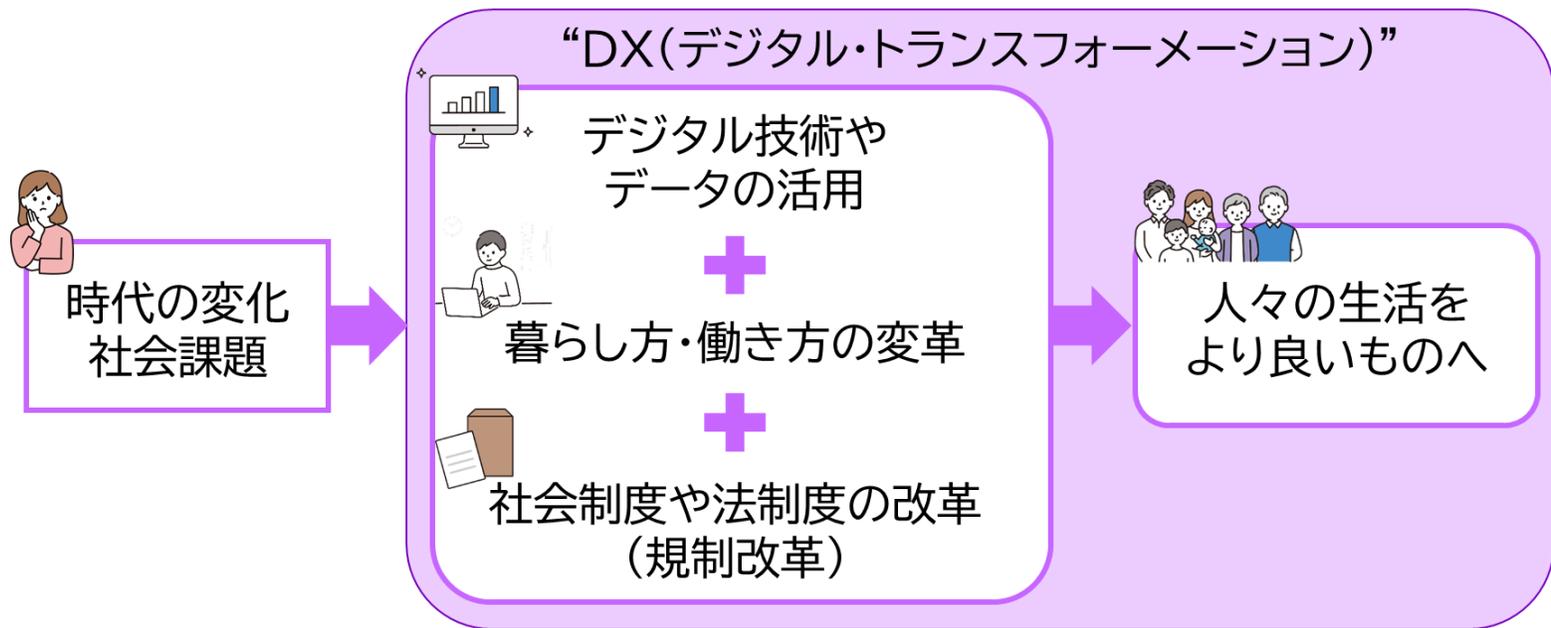
---





# 茅野市における「DX」とは？

- 一般的に言われる「DX(Digital Transformation:デジタルトランスフォーメーション)」とは、デジタル技術やデータを活用してビジネスモデルや業務プロセスなどを革新し、競争力を高める取組のことで、主にビジネスにおいて活用される手法を指します。
- 茅野市においては、この「DX」を、茅野市に住む人や関わる人のくらしや仕事の当たり前を見直し、“人の幸せ”を生み出すために、デジタル技術を活用する取組として推進します。



出典 茅野市DX基本構想

【参考】国におけるDXの定義(経済産業省)

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること



# DX基本構想からDX基本計画へ

- ・ DX基本構想では、茅野市がまちづくりにおいて大切にしてきた想いである「**市民一人ひとりが心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができるまちであり続ける**」ことの実現に向けて「DX」に取り組むことにしました。
- ・ また、デジタル技術やデータを活用したまちづくりを市民とともに進めるため、4つの柱(基盤)を定めました。
- ・ DX基本計画は、DX基本構想に基づき「茅野市のDXの進め方」を具体化するものです。

## 基本方針(想い)と基本理念

想い

**市民一人ひとりが心豊かで健やかに、  
快適な生活を送ることができるまちであり続けたい**

基本方針

**“未来型ゆい”による  
つながりの拡大**

デジタル技術やデータの活用により、「住む人」「訪れる人」「関わる人」の力をつなげ、“まち”の力にする“未来型ゆい”を構築することで、“人”の力、“まち”の力の向上を図ります。

**“人”の力・“まち”の力の向上**

**市民中心のサービス提供**

デジタル技術やデータの活用により、一人ひとりの市民のニーズに合わせた、きめ細かなコミュニケーションやサービスの提供により、様々な地域課題の解決と新たな価値の創造を図ります。

**個と多様性の尊重**

基本理念

未来型ゆいの構築により多様な市民が活躍できる

**たくましく やさしい しなやかな  
交流拠点CHINO**の実現

## 市民とともに進めていくための4つの柱

ルールづくり



市民が安心して“DX”の取組に参加できるよう、国や国際的な団体が提唱するルールを参考に、人権に最大限配慮した茅野市のルールを策定します。

意見の反映・参加の促進



市民の不安を解消し、安心して“DX”の取組に参加いただけるよう、目的の共有や意見交換の場の提供や“DX”の取組を評価し、いただいた意見を改善につなげる仕組みを作ります。

学びの場の提供



デジタル技術やデータの活用に対して、希望する全ての市民が必要とする知識や技術を身につけられる、様々な学びの場を提供します。

データ連携



市民が自らのデータを必要なときに、正しく素早く利用できるように、また、市民自らがいつでもそのデータを確認し、コントロールできるようにオープンで安全なデータ連携基盤を整備します。

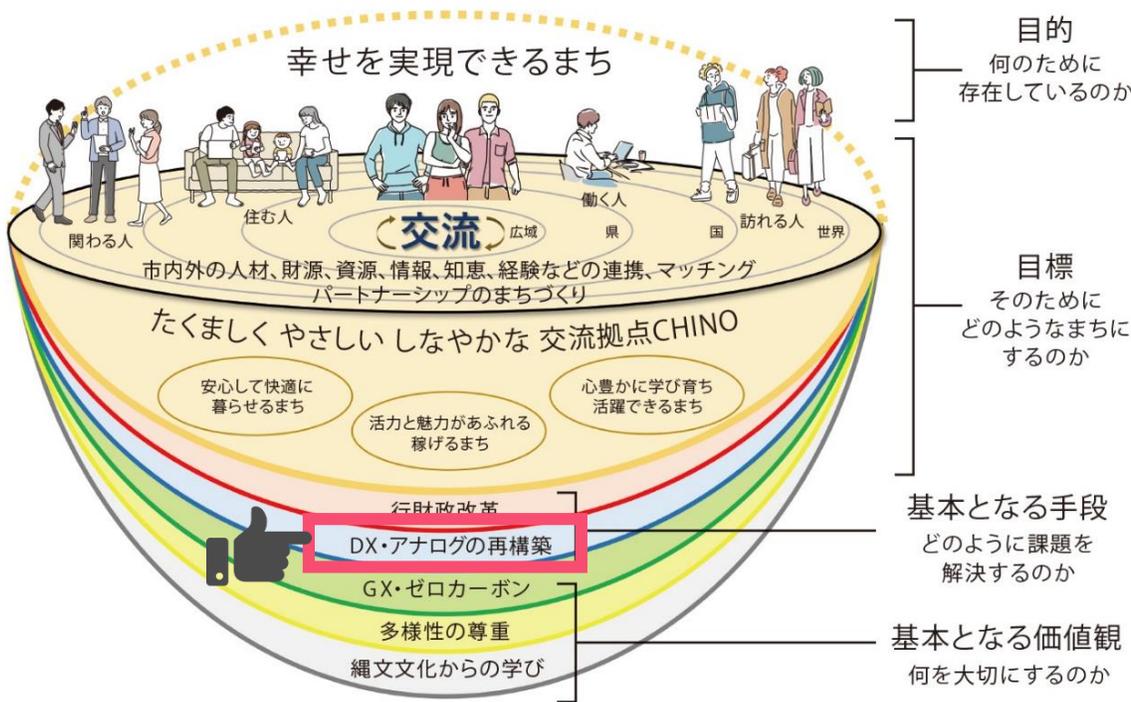
各項目の具体的な内容や進め方は、DX基本計画において明記します。(P28～)

出典 茅野市DX基本構想

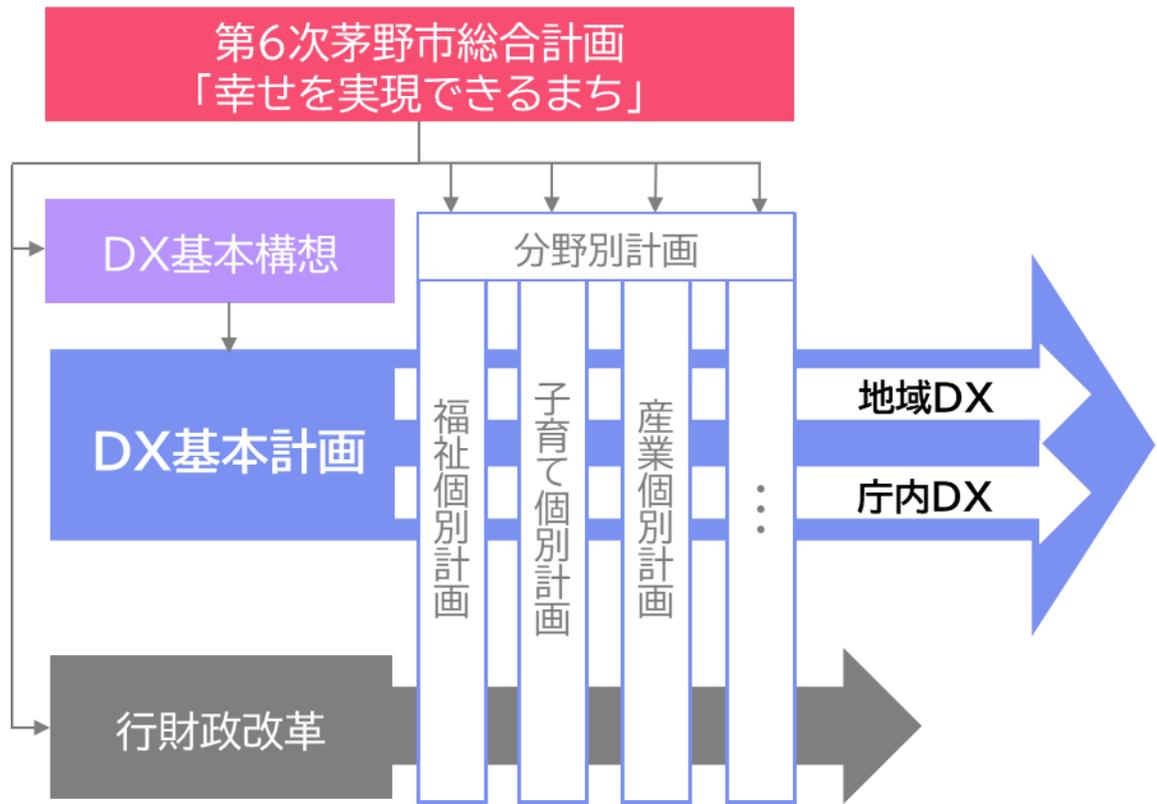


# 第6次茅野市総合計画における「DX基本計画」の位置づけ

- 第6次茅野市総合計画では、「幸せを実現できるまち」の“まちづくりの基本となる手段”として行財政改革と並んで、「DX・アナログの再構築」を導入することとしました。
- DX基本計画は、第6次茅野市総合計画を構成する各分野別計画においてDX事業(地域DX・庁内DX)を推進する際の基本となる横断的な計画です。



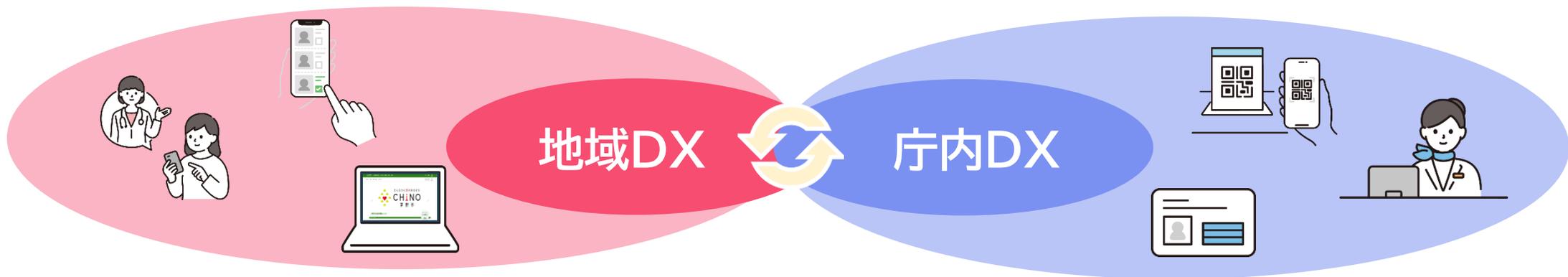
出典 第6次茅野市総合計画基本構想





# 茅野市が取り組むDX

- ・ 市民のくらしや地域の様々な課題の解決を図るために、生活者の声を取り入れた地域のDX化を進め、一人ひとりのニーズに合わせた、デジタルの得手不得手に関わらず誰もが恩恵を受けることができるサービスを提供します。
- ・ あわせて市役所も業務の効率化に向けた庁内DXを進め、地域のDXとの連動を図って、市民サービスの向上に努めます。



- 1 **地域DX** → DXを活用した、市民の“くらし”や地域の課題解決
- 2 **庁内DX** → 市民にも職員にも魅力ある効率的な市役所の創造



# 茅野市DX基本計画で定めること

<ul style="list-style-type: none"> <li>茅野市のまちづくりビジョン(第6次茅野市総合計画)</li> </ul>		P9
<ul style="list-style-type: none"> <li>DXで目指す社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「ゆとり」ある“暮らし”      「全体最適」なまち</li> </ul>	P13
<ul style="list-style-type: none"> <li>DXを進めるうえで大切にすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 目指す社会の実現に向けた共通認識とする「3つのあいことば」</li> </ul>	P15
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本となる手法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>デジタルインフラ</b>      データ連携基盤(都市OS)の活用</li> <li>▶ <b>アナログの再構築</b>      これまでの暮らしや仕事の“当たり前”の見直し</li> </ul>	P18 P21
<ul style="list-style-type: none"> <li>推進体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 事業推進団体から構成する <b>茅野市DX推進協議会</b></li> <li>▶ 市民(受益者)から構成する <b>茅野市DX外部評価委員会</b></li> </ul>	P23
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民と共に進めていくための4つの柱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>「原則とルール」</b> DXを進めるうえで、必ず守る原則とルール</li> <li>▶ <b>「意見の反映・参加の促進」</b> 市民の声の集め、事業に反映させるための方法と仕組み</li> <li>▶ <b>「学びの場の提供」</b> 市民が求める学びの場や活躍の場を持続的に展開する方法</li> <li>▶ <b>「データ連携」</b> データが繋がる仕組みと安全に取り扱うための注意点</li> </ul>	P30 P32 P38 P43
<ul style="list-style-type: none"> <li>DX事業の展開方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本計画期間(令和7年度～令和9年度)におけるDXの進め方</li> </ul>	P47



## 第2章

# DXで目指す社会・大切にすること

---





# DXで目指す社会

地域DX

庁内DX

これからの心豊かで快適な市民生活の実現に向けて、DXをその手段として取り入れていくためには、私たちがみんなで「DXで目指す“暮らし”と“まち”の姿」を共有する必要があります。

## DXで目指す“暮らし”と“まち”の姿

### 1 「ゆとり」ある“暮らし”

これまでの当たり前を見つめ直し、人がやるべきことの見直しやデジタルへの置き換えによって、市民が生活に「ゆとり」を生み出すことができる社会を目指します。

### 2 「全体最適」な“まち”

個別の課題解決が新たに誰かの困難を生むことなく、社会全体の幸せが向上するようなDXを検討し、実現できる社会を目指します。



# デジタル技術をより良く活用するために

地域DX

庁内DX

デジタル技術は、その活用方法を間違えると“暮らし”や“まち”に悪影響を与える可能性があります。

## 好ましくない活用方法

### 市民生活において

- ・ デジタル技術の活用が先行し、市民の声が置き去り
- ・ 類似したサービスが多く、どれが良いかわからない
- ・ ずさんなセキュリティによる情報漏洩の被害
- ・ 煩雑で使いづらい、サービス間の互換性が無い

### 事業者において

- ・ 一部の人のみが恩恵を受けられるデジタル技術の投入
- ・ デジタル技術の投入により仕事が複雑かつ煩雑になる
- ・ 情報漏洩などによる企業利益の損失

### 行政運営において

- ・ デジタルの導入ありきの施策による財政の圧迫
- ・ 行政が主導するだけでは限界(広がらない)

➔ まちの疲弊や衰退を招く



## 私たちのDXの進め方

- ① デジタルが得意な人にとっても、苦手な（使えない）人にとっても、真に必要なDXを考え、カタチにする
- ② みんなでDXを考え、進める
- ③ 進み具合が分かる（安心）  
安全性が確認できる（安全）

こうならない  
ために





# 茅野市のDXを進めるうえで大切にすること

- ・ 私たちがDXを進めるうえで、間違った使い方をしないために、大切にすることを整理しました。
- ・ この3点を3つの“あいことば”として皆さんとともに取り組んでいきます。

## 3つの“あいことば”

### 1 ヒューマンファースト ▶ 人の幸せを目指します

- ・ 市民生活の課題を起点としたDXを進めます。
- ・ デジタルの得手不得手(使える使えない)に関わらず、誰もが最大限に恩恵が受けられるDXを目指します。

### 2 共創 ▶ 市民と共に創ります

- ・ サービスの立案から運用後の改善検討まで、随時市民の声と力を取り入れていきます。
- ・ DXに関わる全ての人(団体、大学、事業者等)が、それぞれの専門性を生かしながら、ともに助け合って創り上げます。

### 3 透明性の確保 ▶ 安心と安全を守ります

- ・ DX導入の目的とその進捗経過、運用上の評価の透明性を確保します。
- ・ データとセキュリティの安全性を確保します(自分に関するデータの取扱い状況が確認できるなど)。



# 3つの“あいことば”

3つの“あいことば”が示す具体的な内容は以下のとおりです。

## 1 ヒューマンファースト

市民生活の課題を起点としたDXを進めます。

- ①デジタルの導入を優先するDXは行いません。  
“人の幸せ”のために必要なDXを進めます。
- ②市民の「くらし・仕事・遊び」など、様々な生活の側面に即したDXを進めます。
- ③事業者はサービス提供者である反面、市民でもあることを考慮した全体最適なDXを進めます。

デジタルの得手不得手に関わらず、誰もが最大限に恩恵が受けられるDXを目指します。

デジタルが苦手な人にも、使えない人にも、平等にデジタルの恩恵を受け続けられるDXを検討します。



## 2 共創

サービスの立案から運用後の改善検討まで、随時市民の声と力を取り入れていきます。

課題の収集、課題解決手法の検討、サービスの実証・実装、評価・改善などの一連のサイクルにおいて、市民の皆さんの声やご協力が反映できる仕組みを構築します。

関連：第5章第2項 意見の反映参加の促進 P32

DXに関わる全ての人(団体、大学、事業者)が、それぞれの専門性を生かしながら、ともに助け合って創り上げます。

市民の皆さんの課題解決や願いの実現のために、様々な専門家が事業に参画する仕組みを作ります。

関連：第4章推進体制(誰が進めるのか) P23



## 3 透明性の確保

DX導入の目的と経過、運用上の評価の透明性を確保します。

課題の収集から課題解決手法の検討、サービスへの評価・改善検討までの経過や進捗、議論の内容などをいつでも、誰でも確認できるようにします。

(公開方法の例)

・茅野市どっとネット、茅野市公式HP など

関連：第6章 DX事業の展開方法 P59

データとセキュリティの安全性を確保します(自分に関するデータの取り扱い状況が確認できるなど)。

- ①個人情報など、機微なデータを扱うサービスの導入検討にあたっては、サービスに対するセキュリティ評価を実施し、安全性や透明性の確認を行います。
- ②サービスの設計段階から実装後も、都度セキュリティ評価の内容を振り返り、適切なデータ管理がされていることを確認します。
- ③評価内容を公表し、データがどのように取得され、利活用されているかを明らかにします。



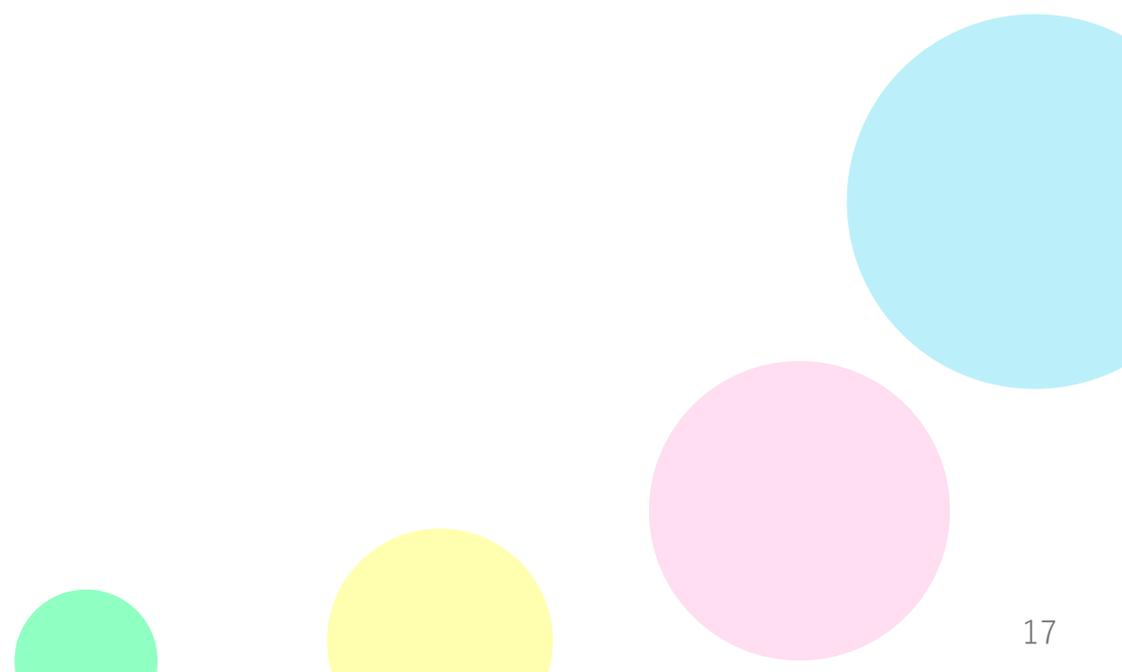
関連：第5章第1項 原則とルール P30



# 第3章

## DXの基本となる手法

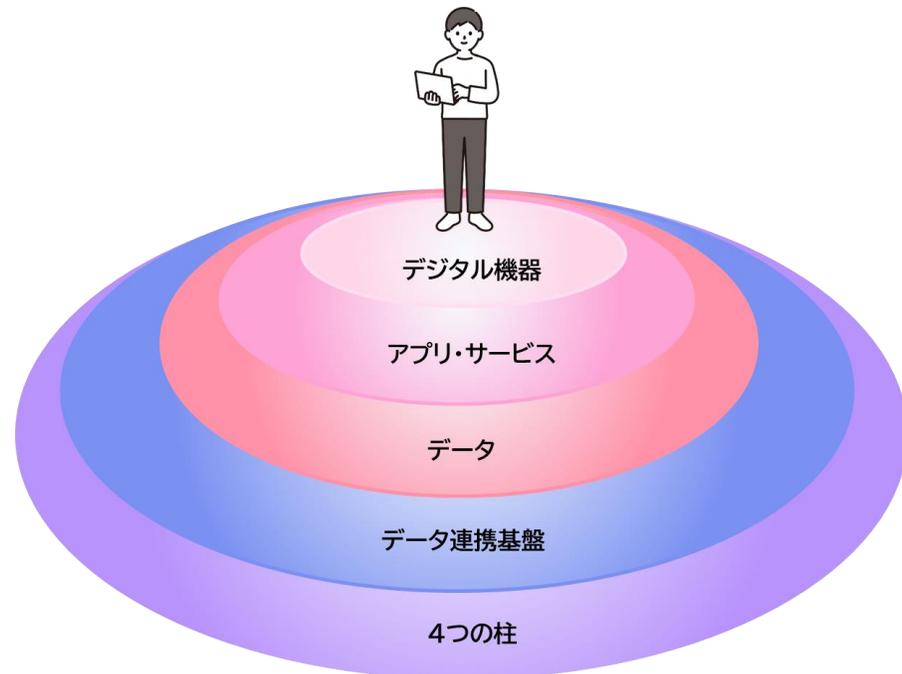
---





# 第1項 デジタルインフラの構築と活用

- ・茅野市は、これからの人口減少社会を踏まえ、住む人、訪れる人、関わる人を繋ぐ新しい結いの形(未来型ゆい)を構築するために、県内初の「データ連携基盤(都市OS)」を活用した、様々なデータやサービスが市民生活に寄り添うデジタルインフラを整備します。(ゆい:古来から血縁・地縁に基づく人々の助け合い・支えあい。主に労働力を中心とした相互扶助の仕組み)
- ・デジタルインフラを活用して、本人の同意により、点在するアプリやサービスが保有するデータを繋ぐ(又はいつでも繋げる状態にしておく)ことで、必要な情報やサービスを必要な時に取得、利活用ができるようにします。



## デジタルインフラの活用の利点

⇒ データを繋ぐことで以下のようなメリットが得られます。

- ・ネットワーク化(データとデータ、人と人、人とサービスなど)
- ・省力化、効率化
- ・コスト削減
- ・分析、マーケティング
- ・即時性

## デジタルインフラの活用の利点を全ての人に届けるために

⇒ デジタルインフラの活用の利点について、広く理解を進めます。  
(各種データが安全に利活用されることで、“暮らし”も“まち”も良くなること)

⇒ デジタル機器が使えない人(使わない人)に配慮します。

- ・別の手段(スマートテレビ、会話AIロボット、スマートスピーカーなど)
- ・人的サポート(家庭、地域、企業内サポートなど)
- ・学びの場(スマホ教室、職場内研修、公民館活動など)



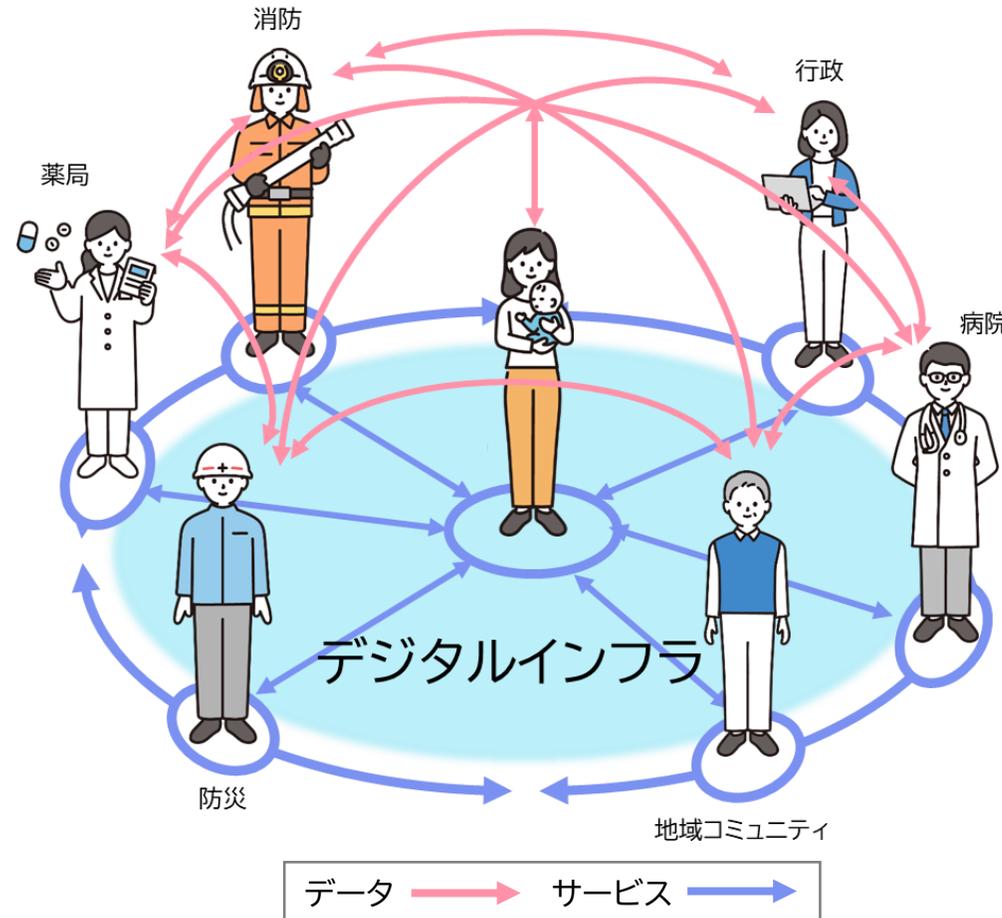
# デジタルインフラの活用による利点 1/2

- ・ デジタルインフラの活用により、デジタルを介して、人の手と手の繋がりを生むことができます。
- ・ 例えば、災害時に様々な人や組織が、迅速かつ有機的に対応することができます。

## デジタルインフラの仕組みがないと

### 避難所に避難しているのに…

- ・ **消防**  
⇒あなたが避難したか、家に残っているかわからない
- ・ **医療、福祉**  
⇒あなたの病歴や介護度などの情報が無い  
⇒あなたに常用薬や薬剤アレルギーがあるかわからない
- ・ **防災**  
⇒避難所の収容者の状況や必要物資の状況把握に時間がかかる
- ・ **地域コミュニティ**  
⇒安否確認が取れていない  
⇒あなたがどこにいるかわからない
- ・ **行政**  
⇒情報の整理に時間がかかり、復旧指示が遅れる  
⇒罹災証明の発行に手間がかかる



## デジタルインフラの仕組みがあれば

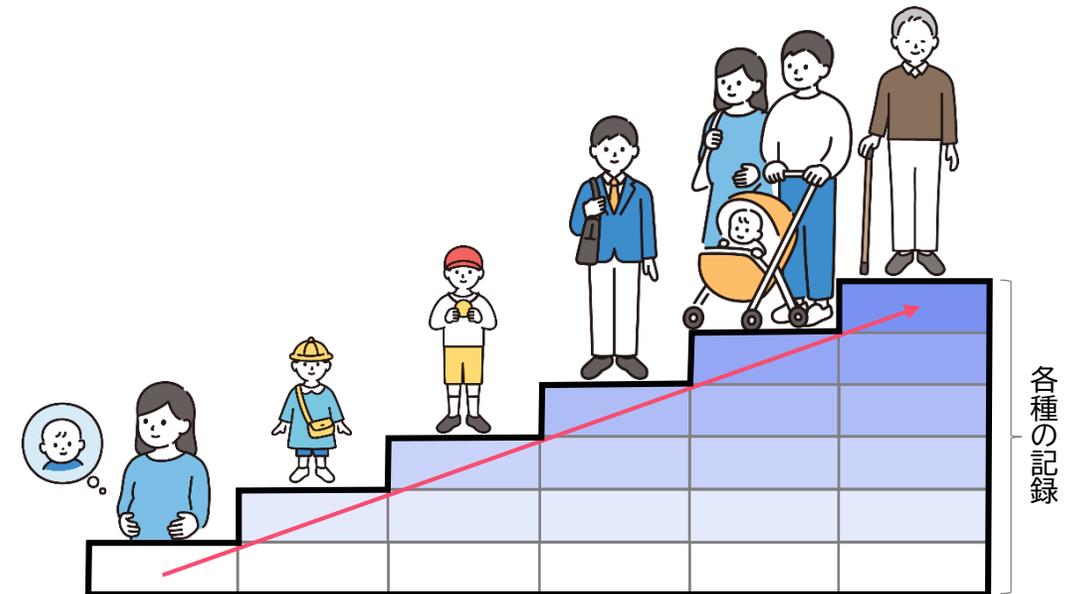
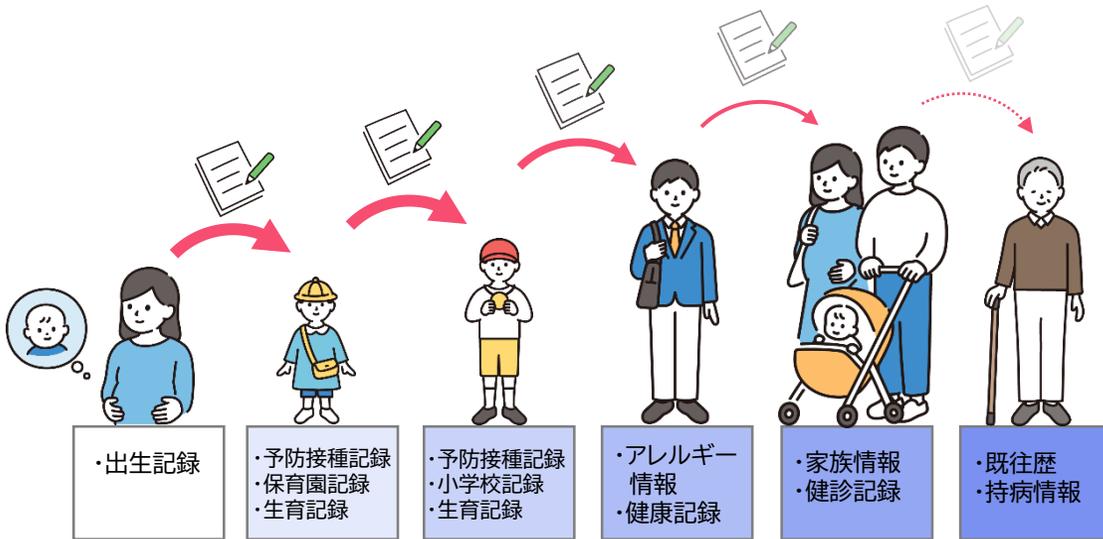
### 避難所に避難していれば…

- ・ **消防**  
⇒あなたの避難状況が確認でき、迅速な対応ができる
- ・ **医療、福祉**  
⇒あなたの病歴や介護度などが事前に分かり、適切な処置ができる  
⇒あなたの常用薬や薬剤アレルギーを把握したうえで薬を処方できる
- ・ **防災**  
⇒避難所収容者の状況が迅速かつ的確に把握でき、必要物資が適切に配布できる
- ・ **地域コミュニティ**  
⇒安否確認が取れることで、安心感に繋がる
- ・ **行政**  
⇒各所の情報を一元化でき迅速な対応がとれる  
⇒罹災証明が迅速に発行できる



## デジタルインフラの活用による利点 2/2

- デジタルインフラの活用により、情報が消えたり紛失することなく、生涯にわたって自身の情報をデータとして持っていることができるようになります。
- これによって、必要な時に、自身の過去の情報を確認できるようになったり、その時々に関わる人(病院・学校・職場など)にもメリットになります。



- 各ライフステージで取得する情報は、それぞれが個別に管理されている(主に紙などのアナログ媒体)ため、次のライフステージに引き継ぐ必要があります。
- 引き継ぐ手間(入園、入学時に同じ情報を都度記入など)と、情報の必要性の希薄化などにより、情報が引き継がれなくなります。
- いざという時にその情報を取得することが困難になります。  
(例)・母子手帳の紛失、アプリの削除 など

- 各ライフステージごとに取得する情報を、データとして一元的に管理できることを目指します。
- データ化することで情報として繋がり、引き継ぐ手間が省けます。
- 繋がったデータをいつでも振り返ったり、自身の同意によって、外と繋ぐことができるようになります。



## 第2項 くらしや仕事の見直し(アナログの再構築)

地域DX

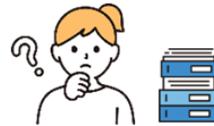
庁内DX

- 人口減少社会において、理想的な地域社会を目指すためには、これまでのくらしや仕事の進め方の“当たり前”を見つめ直し、社会の変化に合わせた最適な方法に変えていくこと(アナログの再構築)が必要です。
- また、デジタルインフラを構築し、DXをより良く進めるためには、その前提としてアナログの再構築が必要です。
- アナログの再構築やデジタルインフラの充実が進むことで、更なるくらしや仕事の見直しにつながります。

### ヒューマンファーストなくらしや仕事の見直しのポイント

#### 1 人(自分)がやるべきことなのかを考える

YES or NO



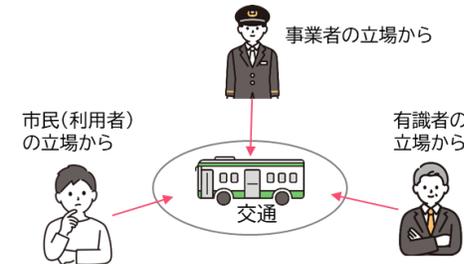
これって私がやること？

- 明らかに合理化・省力化・効率化が求められるような人の手でなくとも良い部分をデジタル技術等(※)に置き換えることで、人々の活動をサポートする。
- 不必要なことをやめる(整理する)。



デジタル化しないアナログの再構築もある。

#### 2 それぞれの立場から考える



- DXに関わる人がそれぞれの立場や知見を活かして最適な解決手法を考えます。
- また、デジタル技術等を活用して、これまでまちづくりに参画することができなかった人の力を、まちの力に取り込むなどして、これまでの手順を見直します。

※デジタル技術等  
パソコン・タブレット・スマートフォン等のデジタルツール、アプリ等が保有する個人情報などのデータ、AI、メタバース等の先端技術 などの総称



# 全体最適なアナログの再構築を考える

- ・ 個別分野の課題を解決するにあたっては、それが新たに誰かの(他の分野の)困難を生み出さないように、また、必要以上にコストをかけることなく、社会(コミュニティ)全体の幸せが向上するように検討・設計を進める必要があります。
- ・ 縦割りの視点ではなく、全体を俯瞰的に見ながら全体最適なアナログの再構築を進めます。

## △ 部分最適

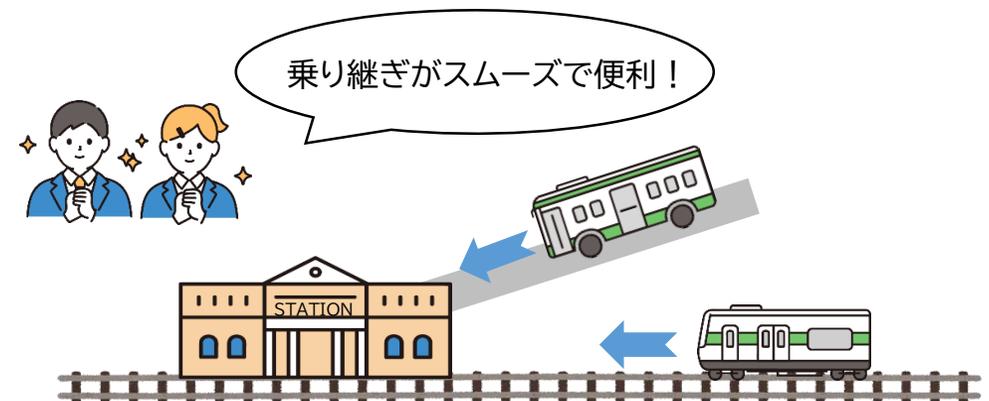
- バス事業者
  - 鉄道事業者
- それぞれのダイヤにより利用者を目的地まで安全に、時間どおりに運び、運行収益を得ている。

- △利用者
- バスのダイヤどおり駅に着くことはできたが、電車のダイヤと時間がずれているため、待ち時間が長い。



## ○ 全体最適

- ◎バス事業者
  - ◎鉄道事業者
  - ◎利用者
- 電車のダイヤに合わせてバスを運行することで、利用者が増え、運行収益が増加した。
- バスからの乗り継ぎがスムーズになることで、利用者が増え、運行収益が増加した。
- バスと電車の乗り継ぎがスムーズになり、より快適に利用することができる。



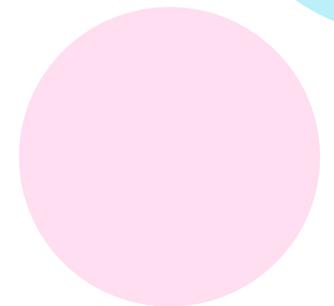


## 第4章

# 推進体制(誰が進めるのか)

---

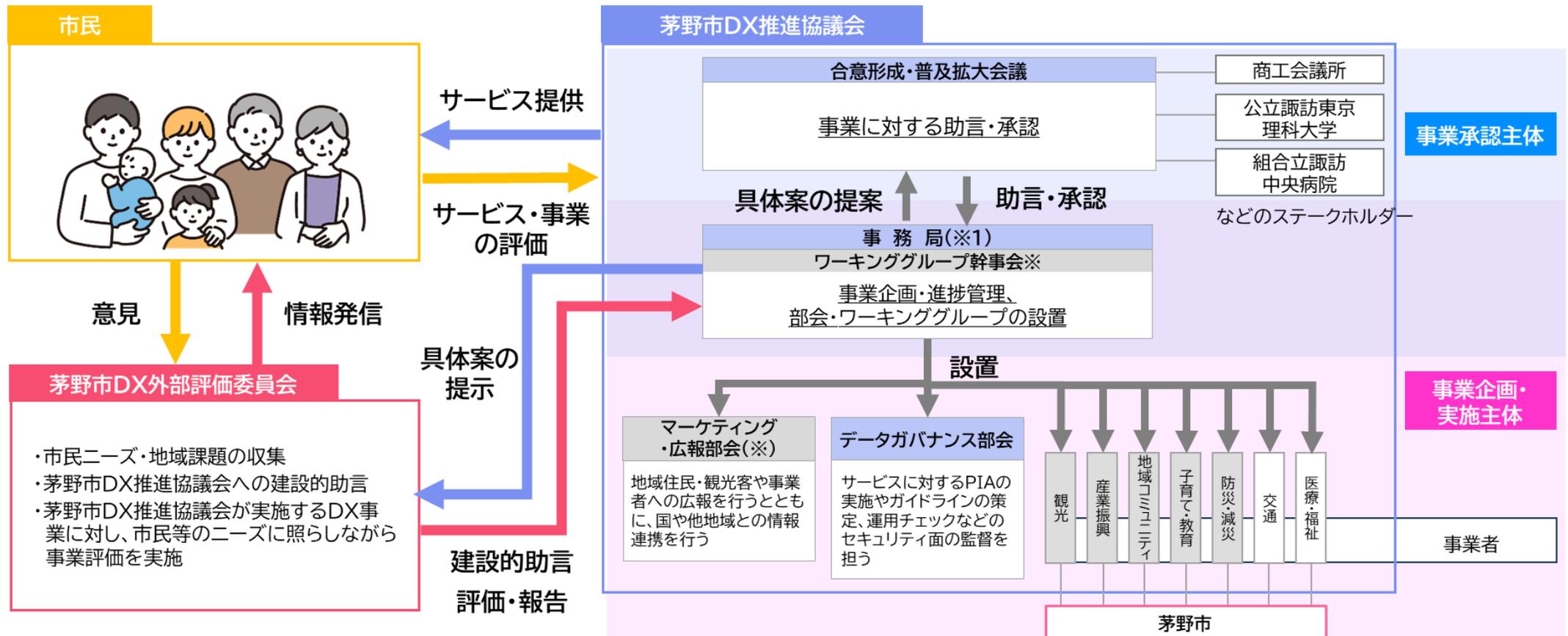
---





# 推進体制

- デジタルインフラの民間活用を見据えた将来像を描きながら、「共創」を進めるための組織体制を構築します。
- 基本的な体制として、事業推進団体から構成する“茅野市DX推進協議会”と、受益者である市民で構成する“茅野市DX外部評価委員会”を中心とします。



灰色の組織は順次設置

※1 体制が整うまでの間は、茅野市が事務局を担う



# DXの展開に関わる各団体等の役割

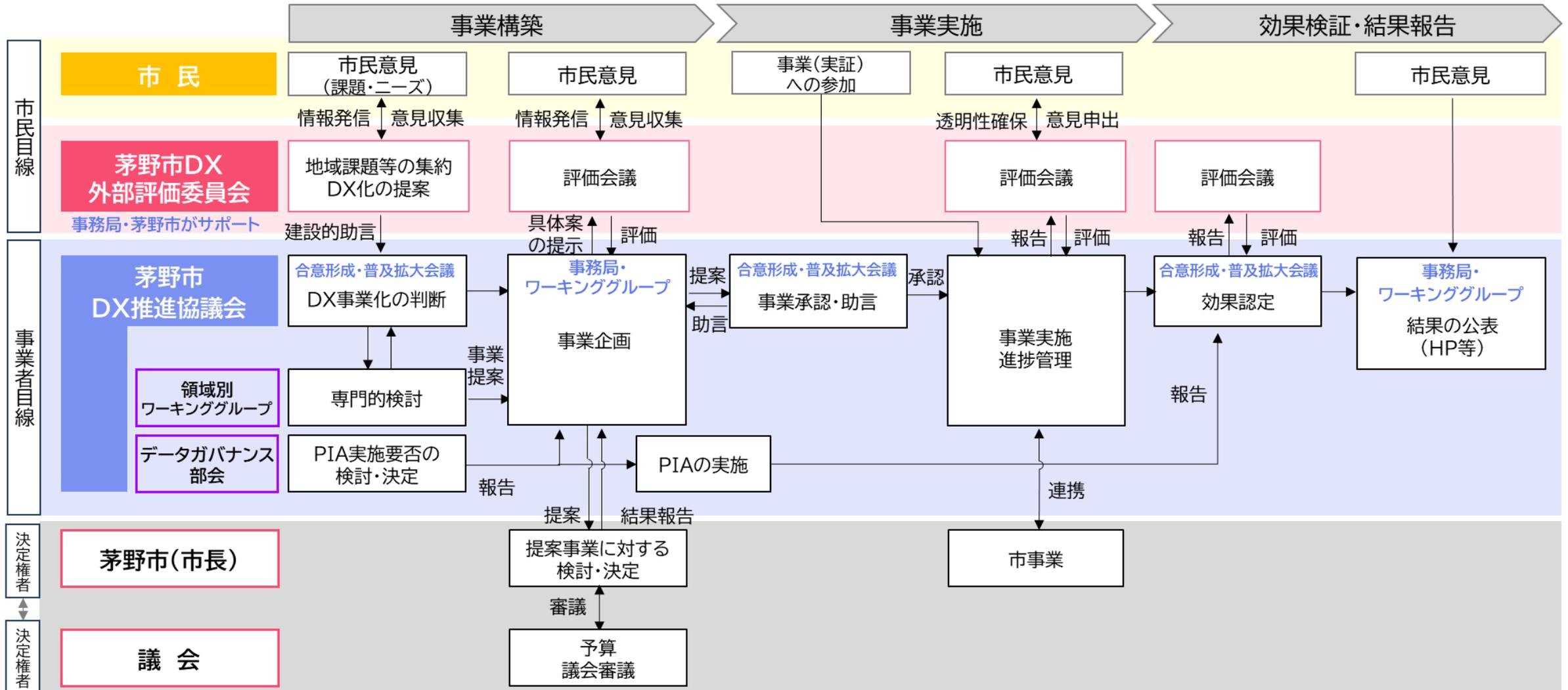
DXの展開にあたっては、それぞれの主体が役割を担いながら一体となって進めます。

		役 割	構成員等
市 民		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暮らしの課題感の発信</li> <li>・ 事業(実証)への協力</li> <li>・ サービス、事業に対する評価</li> <li>・ デジタルへの正しい理解と積極的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茅野市民、在勤者、テレワーカー、観光客、市外からの通学、通勤者 など</li> </ul>
茅野市DX推進協議会	合意形成・普及拡大会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DX事業化の判断</li> <li>・ 事業承認、助言</li> <li>・ 効果認定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域団体代表者・・・公立諏訪東京理科大学、諏訪郡医師会、茅野商工会議所、組合立諏訪中央病院、茅野市社会福祉協議会、茅野市金融団</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DX外部評価委員会との連携</li> <li>・ 事業企画、進捗管理、都市OSの運用</li> <li>・ 部会、ワーキンググループの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ワーキンググループ代表者・・・民間事業者 等</li> <li>・ アーキテクト・・・DX推進機関の首長的存在</li> <li>・ アドバイザー ・市担当者</li> </ul>
	部会・ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の専門的検討</li> <li>・ 事業実施</li> <li>・ PIA(プライバシー影響評価)の実施(データガバナンス部会)</li> <li>・ 関係機関等との情報連携、広報(マーケティング・広報部会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間事業者等(事務局が推薦する者)</li> <li>・ 茅野市民</li> <li>・ 市担当部課局 等</li> </ul>
茅野市DX外部評価委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民への情報発信</li> <li>・ DX化の提案</li> <li>・ DX推進協議会への建設的助言</li> <li>・ 市民、地域ニーズ等の集約</li> <li>・ サービス、事業に対する評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茅野市における審議会、委員会の委員</li> <li>・ 市民代表者</li> <li>・ 有識者</li> </ul>
事業者		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワーキンググループへの参画(事業化の提案)</li> <li>・ 安全なサービスの提供</li> <li>・ 事業者間の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内外企業等</li> </ul>
茅野市(市長)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DX推進協議会、DX外部評価委員会との連携</li> <li>・ 関係部局間の連携</li> <li>・ 議会対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係部課局</li> </ul>



# 【参考】基本的な事業推進の流れ

課題の収集・課題解決手段の検討から結果報告までを以下の流れをもとにそれぞれの役割により進めます。

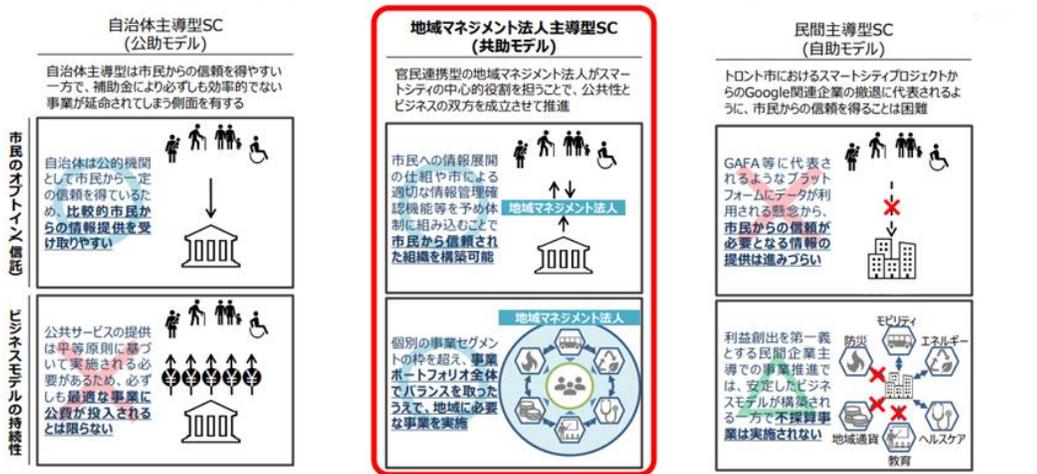




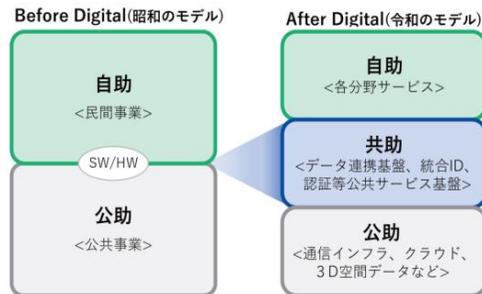
# 【参考】収益性のある持続可能な推進体制

将来的には、より専門性や安定性の高いサービス提供や、収益性のある持続的な経営のための事業主体のあり方を先進事例を参考に検討します。

## 先進事例 地域マネジメント法人主導型スマートシティ 福島県会津若松市(AiCTコンソーシアム)



福島県会津若松市は、地域全体のデジタル化プロジェクトであるスマートシティ推進のためには、公共性とビジネス継続性の双方のバランスをとることが可能な、地域マネジメント法人主導型が最適であるとの考えのもと、(一社)AiCTコンソーシアムを中心とした、官民学共同の推進体制を構築し、民を中心に管理・運営する共助(シェアードエコノミー型)のビジネスモデルを構築しています。



出典 会津若松市「スマートシティ会津若松」の取組とビジョン



## 可能性 「茅野モデル」の展開

茅野市が取り組むDXを、他自治体にも広めていくことで、他自治体にお住まいの方も茅野市の住民と同じようにDXの恩恵を受けることができます。

また、同じプラットフォームを共同活用することで、コスト削減などのメリットが見込まれます。

今後、他自治体への展開を目指して、働きかけを行っていきます。

### 「茅野モデル」の展開により見込まれるメリット

#### ① 広域運用によるサービスの向上

⇒茅野市のDXの仕組みが近隣自治体など、広域的に活用されることで、市外のかかりつけ病院とも情報の連携がされるなど、サービスのさらなる向上が図られます。

#### ② コストの削減

⇒同じプラットフォームを他自治体と共同運用することで、コスト削減が図られます。



## 第5章

# DXを市民とともに進めていくための4つの柱

---

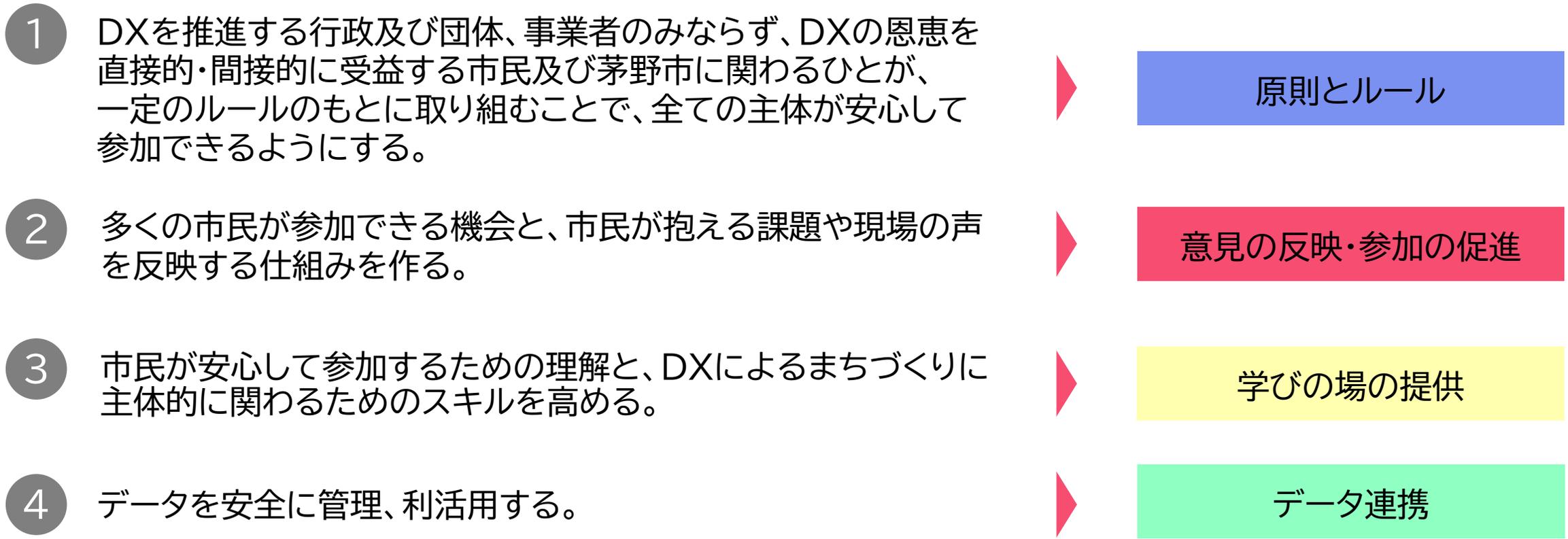
---





# 4つの柱を定める意義

- ・ 本計画において明らかにした茅野市のDXを実現するためには、市民の参画が必要不可欠です。
- ・ 市民がDXに安心安全に参画できるよう、DX基本構想に掲げた「4つの柱」を以下のとおり具体化し、これらを基盤としたDXを進めていきます。





# 第1項 原則とルール

- ・ 3つの“あいことば”(P15)に基づくDXを進めるための原則とルールを次のとおり定めます。
- ・ この原則とルールや関係法令等に基づき、提供者はサービスの企画、提供やデータの利活用を、受益者はこれらに基づき、サービスへの参加や評価をすることとします。

—原則—

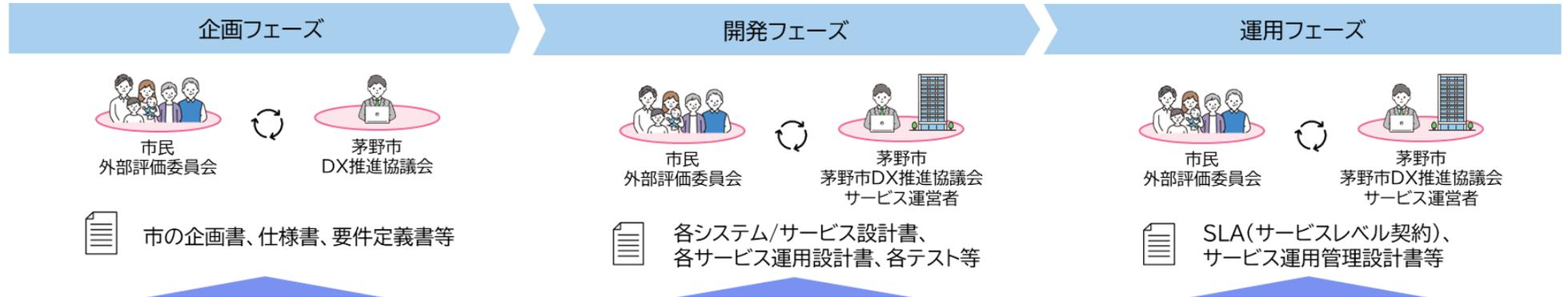
—ルール—

1	市民サクセスの原則 (起点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政起点ではなく、市民が便利さやメリットを実感できるサービスを目指すこと</li> <li>・ 目指す情報が得やすく、使いやすく、わかりやすい、そして堅牢なサービスにすること</li> <li>・ サービスの利便性を考慮して、業界や組織の壁を越えた円滑なデータ連携と相互でその運用管理が行えるようにすること</li> </ul>
2	透明性と権利保護の原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明確でわかりやすい形で個人データの取り扱い状況を確認でき、市民の意思でいつでもその使用の開始・停止・再開ができるようにすること</li> </ul>
3	安心・安全第一の サービス設計の原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人データやプライバシー保護を意識した施策を、企画・設計段階から組み込むこと</li> <li>・ データ連携するシステム等は、市が指定するサイバーセキュリティ対策を講じること</li> <li>・ 個人データの不適切利用や流出等に備えた体制を、市及びサービス運営者で構築し、それらが発生した際には、迅速かつ適切な対応をすること</li> </ul>
4	市民共同型ガバナンスの原則 (管理)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス運営者と市民が積極的にDX推進やその方向性に関与し、サービス運営者と協働で運営すること</li> <li>・ 同じ目的・方向に向かって協力し合い、創出される相乗効果で効果的に達成すること</li> <li>・ 間違いや失敗を前向きな学びと捉え、DX推進時には、この原則やルールの順守状況等を確認し、ブラッシュアップすること</li> </ul>
5	データリスクの見える化と 対応策実施の原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人データの利活用の際にリスク評価を行い、その対応策を講じること</li> </ul>



# 事業推進における原則とルールの適用(例)

- ・ 当原則とルールは事業者が企画、開発、運用のそれぞれの過程で以下のように適用します。
- ・ あわせて、これは事業を評価する際の重要なポイントにもなります。

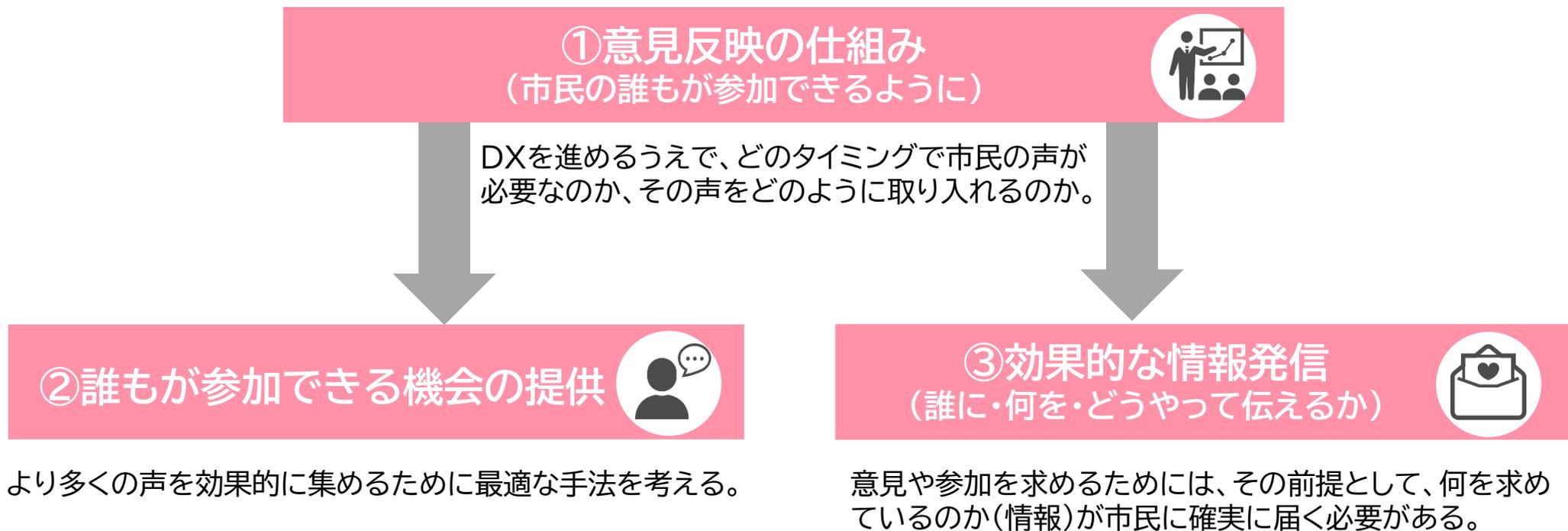


1	市民サクセスの原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 企画の内容が行政起点となっていないか？</li> <li>✓ 課題の優先順位は最適か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 前フェーズの要求/要件事項が反映されているか？</li> <li>✓ 市民の利便性に考慮したサービス設計か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ データ連携にかかる運用が円滑に実施されているか？</li> </ul>
2	透明性と権利保護の原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 情報の取扱いや、その運用管理が考慮されているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 利用者の意思でサービス使用の停止等ができるような設計となっているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 利用者の意思でサービス使用の停止等ができるサービスが提供されているか？</li> </ul>
3	安心・安全第一のサービス設計の原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個人データやプライバシー保護についての要望/要求事項が盛り込まれているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個人データやプライバシー保護の施策やセキュリティ対策が設計されているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個人データやプライバシー保護の施策やセキュリティ対策が実装・運用されているか？</li> </ul>
4	市民共同型ガバナンスの原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 市民と協働体制で計画的に議論が進められているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 市民との協働体制で計画的に議論が進められているか？</li> <li>✓ 本ルールの順守状況が確認されているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 市民との協働体制でサービスの運用状況について定期的に議論が進められているか？</li> <li>✓ 本ルールの順守状況が確認されているか？</li> </ul>
5	データリスクの見える化と対応策実施の原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個人情報を利用する(または関連する)サービスか？</li> <li>✓ PIA(プライバシー影響評価)の実施が必要か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ PIAが実施され、結果を踏まえた対策がされているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ PIAの結果が反映された運用がされているか？</li> </ul>



## 第2項 意見の反映・参加の促進

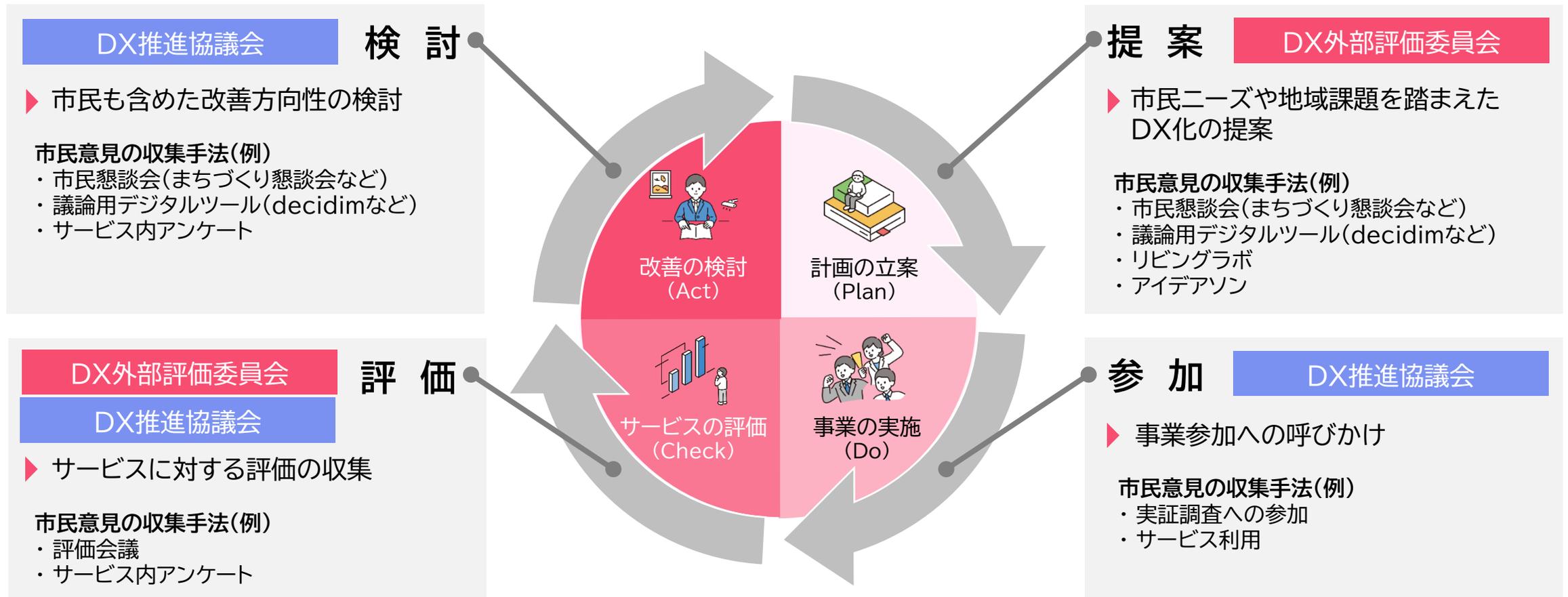
- ・ヒューマンファーストの共創によるDXを進めるためには、市民が“自分ごと”として、主体的にDXに参加できることが重要です。
- ・そのためには、市民の声を事業に反映させるための仕組みづくりと、市民に必要な情報が確実に届くこと、また誰もが参加できる機会を提供することが必要です。





# ①意見反映の仕組み(市民の誰もが参加できるように)

課題解決手法の検討から運用後の改善検討までの一連のサイクルにおいて、都度、DX推進協議会とDX外部評価委員会が、市民が評価や参加をする機会(評価会議、実証調査への参加、サービス内アンケートなど)を設け、評価結果を事業に反映させます。





## ②誰もが参加できる機会の提供(例)

様々な市民に対して参加の機会を提供するために、デジタル技術とアナログ手法を組み合わせた柔軟な参加方法を考えます。

提  
案  
検  
討

### “リビングラボ”の開催

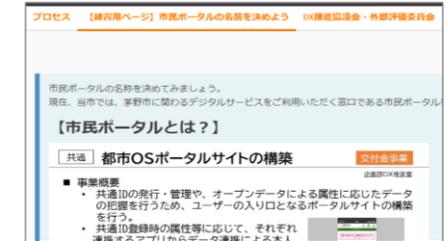
実施主体(DX推進協議会・市・事業者など)と生活者(市民)が生活者の実生活に近い場で、地域課題の解決策の検討・検証や、仮説の探索などを通して、サービス導入・改善のヒントを創出する。



提  
案  
検  
討

### 議論用デジタルツールの活用

参加者がオンライン上で議論(コメントのやりとり)が行えるコミュニケーションツールを活用し、時間や場所にとられない議論の場を提供する。これによって、現場に足を運ぶことができない市民や、日頃参加の機会が少ない市民からも意見を集める。



参  
加

### 実証調査への参加

サービス導入の効果検証などを目的に、疑似的にサービスを運用する実証調査へ市民の参加を求める。ユーザー目線での調査結果を踏まえたうえでのサービス導入の検討を行う。



2024. 1. 22長野日報社記事

評  
価

### サービス内アンケートの実施

ユーザーからの生の声を更なるサービスの向上につなげるため、使用するサービス内でのアンケート調査を実施する。



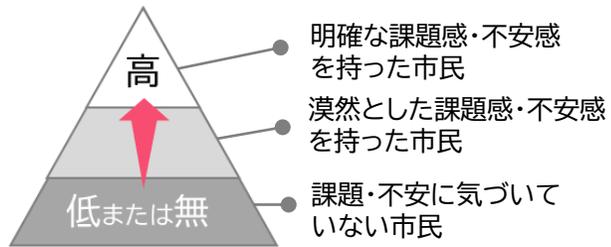


# ③効果的な情報発信(誰に・何を・どうやって伝えるか)

- ・ 市民の声を集めるためにまず重要なことは、市民に必要な情報を確実に届けることです。
- ・ 市民が“自分ごと”として共感できる主体性のある内容を届けることで、参加の促進につなげます。

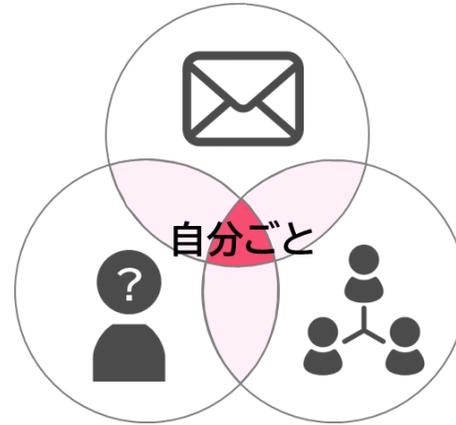
## 主体性があり共感できる情報

課題や不安感の関心度は人によって異なる



## 配慮すべき3つの〇〇性

- ・ **交換可能性**  
市民が受け取りたいと思える内容である
- ・ **主体性**  
事業やサービスの意図や背景、将来像が明確である
- ・ **共感性**  
課題感や不安感の解消が目的であることが明確である



## 明確なターゲット

### 年代・性別

- ・若年層、中年層、高齢層…
- ・男性、女性、LGBTQ+…



### 環境

- ・市内在住、市外在住、外国人、障がい者、別荘居住者、観光客…



### コミュニティ

- ・子育て、企業、行政区、学校、地域団体…



Etc...

## 情報を確実に届けるための手法

### コミュニティの活用

- ・ 課題や不安感への関心度が高い市民は、自ら情報を取得したり、同じ課題感を持ったコミュニティが形成されやすい。  
⇒個人への情報発信がコミュニティへ広がる。
- ・ 課題や不安感への関心度が低い市民ほど、その人が属するコミュニティ(学校、企業、行政区等)を経由した情報発信が有効。  
⇒コミュニティへの情報発信から個人へ広げる。

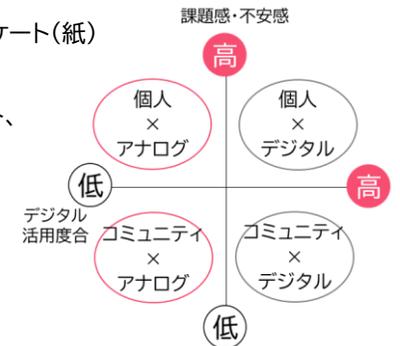
### 情報伝達手法

情報を伝えたい相手に合わせた情報伝達手法を活用する。(アナログ手法の例)

- ・回覧板、広報ちの、通知、アンケート(紙)

(デジタル手法の例)

- ・HP、SNS、茅野市どっとネット、アンケート(LoGoフォーム)





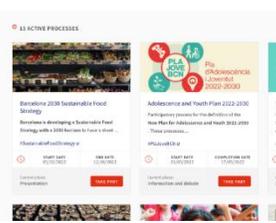
# 【参考】意見の反映・参加の促進の取組事例

提 案  
評 価

## “Decidim(デシディム)”の活用

(スペインバルセロナ市)

- ・バルセロナ市は、参加型民主主義プラットフォーム「Decidim」を活用して、市民とともに都市計画を進めるとともに、透明性の高い行政運営を実現しています。
- ・2016年に立ち上げた「Decidim Barcelona」では、約7,000件の市民提案が集まり、実行可能な提案が選ばれました。また、参加型予算プロセスを導入し、市民が予算配分に直接関与できるようになりました。
- ・これにより、行政への信頼感が高まるとともに、多様な意見が政策に反映され、特に若者や少数意見が取り入れられる機会が増えました。



提 案

## “みんなのまちづくりスタジオ”

(千葉県柏市・(一社)UDCKタウンマネジメント)

- ・「みんなのまちづくりスタジオ」は、柏の葉スマートシティを推進するためのプロジェクトで、まちのユーザーである生活者を中心にして企業や行政、学術機関が共創していくプラットフォームを活用したリビングラボプログラムを実施しています。
- ・生活者目線の新商品・新サービスを生み出したい企業・行政・大学が主体となり、テーマに沿って募集した生活者とともに連続したアイデア出しから実証を行うことで、生活者からのより信頼性の高い製品やサービスの実装が可能となります。



みんなのまちづくりスタジオ  
KASHIWA-NO-HA  
一緒に未来を動かそう。



参 加

## “スマートシティサポーター”による周知

(福島県会津若松市)

- ・会津若松市では、スマートシティの新しいサービスを体験してサービス提供企業に意見を伝えたり、感想をSNSで発信・拡散するなど、スマートシティの推進をともに進めることを目的に、希望する市民が「スマートシティサポーター」として活躍しています。
- ・この制度によって、市民間のコミュニケーションを活性化することを通じて、より便利で使いやすいサービスの実装や改良につなげていくことが期待されます。



評 価  
検 討

## “市民参加型事業評価”

(東京都町田市)

- ・町田市の「市民参加型事業評価」は、市民と有識者が評価チームとなって行政事業を評価し、改善策を提案する取組で、評価結果は市の改善プログラムに反映されます。
- ・高校生が評価人として評価対象事業を決定したり、評価会議の様子をYoutubeやメタバース空間でライブ配信する、評価結果や改善プログラムを市のホームページで公開するなど、事業の透明性と信頼性を高めています。





# 茅野市が取り組むこと

先進事例を参考にしながら、市民が“自分ごと”として意見や参加ができるために、都市OSへの入口である地域ポータルサイトの活用と充実を目指します。

## 提案 評価 オンライン意見集約機能

ポータルサイト上で課題提起や、アイデア出しなどを誰でも行えるように、記事へのコメント機能などを活用した意見集約機能を持たせます。また、投票機能やチャット形式の議論の場など、市民参加プラットフォームとして活用を目指します。



## 参加 茅野市HPや外部メディアとの連携

茅野市ホームページや民間サイトなどから茅野市の関連情報や記事をポータルサイトに連動させることで、行政だけではなく、市民や民間企業等を繋ぐプラットフォームとして活用を目指します。



茅野市どっとネット  
(現在運用中のポータルサイト)

## 参加 オープンデータカタログサイト

公共データを誰でも閲覧できるように提供することで、行政の透明性や信頼性の向上を図り、市民協働を推進します。また、データの利活用を促進し、経済の活性化や行政の効率化も目指します。



## 参加 情報発信ツールとしての活用

専用のID登録をすることで、ユーザーの属性に合わせた記事のレコメンドやプッシュ配信が可能になります。この機能を市民への情報発信ツールの1つの手段として活用します。



## 参加 学びのカタログサイト

それぞれの実施主体(行政・民間企業・市民団体等)がバラバラに提供するデジタルに関する学びの場の情報を、ポータルサイトに一元化します。これによって、情報の集約と学びたい人と場のマッチングを向上させます。

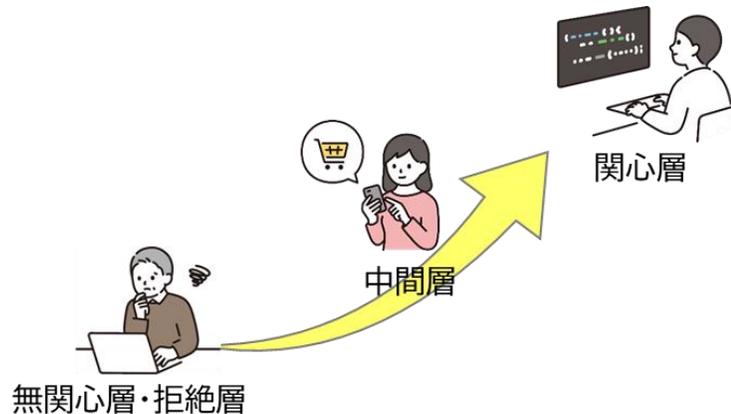
詳細は「第5章第3項 学びの場の提供」参照



## 第3項 学びの場の提供

- デジタルに対する認識や活用度合いに差がある市民が、安心してDXに参加するための理解と協力を高めるためには、広く、持続的な学びの機会を確保することが必要です。
- 様々な学びを通して、情報機器を使用しない人も含め、まちづくりの1つの手段としてのデジタルの有用性と安全性を理解した、ヒューマンファーストなまちづくりに参画する市民(スマートシチズン)を育成します。

### ①スマートシチズンの育成と創出



市民一人ひとりが、デジタル技術の活用に必要な知識や、自分自身に関するデータがどのように利活用されるかを知り、自身のデータを安全に管理するための知識や、まちづくりへの活用方法を習得できる学びの機会を確保します。

### ②持続可能な学びの場の展開

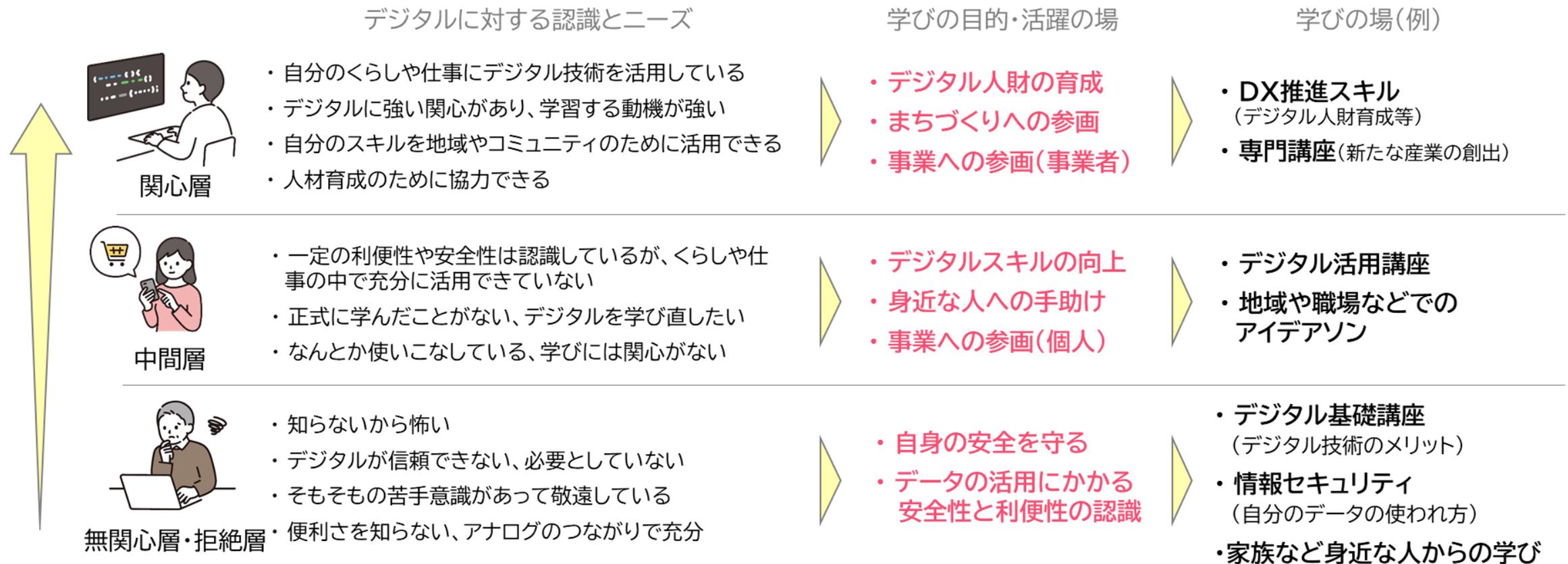
- ▶ 既存の学びの場の活用と連携 
- ▶ 学びのための最適な費用対効果を考える 
- ▶ 外部人材(企業)の活用 
- ▶ 地域内での学び合いの仕組みづくり 

限られた資源(人財、財源等)や、デジタルインフラの仕組みを活用した人の繋がりを有効に活用しながら、質の高い学びを継続的に確保します。



# ①スマートシチズンの育成と創出

- ・ 市民それぞれのデジタルに対する認識やニーズに合わせた“学びの場”を提供するとともに、一人ひとりのスキルに合わせた“活躍の場”を提供します。
- ・ デジタルに関する学びを通して、より多くの市民が、ゆとりあるくらしや、全体最適なまちづくりに参画することを目指します。





## ②持続可能な学びの場の展開

学びの機会が継続的に確保され、多くの市民に参加いただくことができるようにするために、以下の点を考慮しながら、最小のコストで最大の効果を得ることができる提供の仕組みを検討、展開します。

### 既存の学びの場の活用と展開

様々な団体が実施している既存の学びの場の更なる活用を促すとともに、個別に実施されている学びや新たな学びが連携することで、スキルアップの展開を図ります。

#### 既存の学びの場

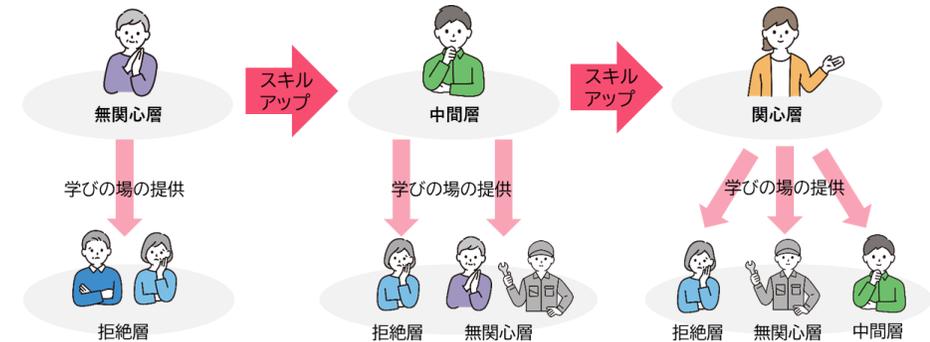
- ・ みんなのパソコン広場
- ・ スマートフォン入門講座
- ・ スマホ・PCお悩み相談室
- ・ SNS講座(ワークラボ)
- ・ Wordで作画(市民活動団体)
- ・ 動画作成(市民活動団体) など



スマホ・PCお悩み相談室

### 地域内での学び合いの仕組みづくり

講座の受講者が次の講師を務めたり、新しい学びの場を創出するなど、地域内や家族間、世代間での市民同士の学び合いや助け合いの仕組みを作ります。



### 外部人材(企業)の活用

デジタルインフラの仕組みの活用や、ウェブ会議の普及により、これまでは実現が出来なかった、地域外の人財や企業との連携も容易になってきました。

これらを活用することで、地域内の人財だけでは限界がある学びのすそ野を広げます。



### 学びのための最適な費用対効果を考える

限られた資源(人財、財源等)で最大の効果を得られる学びの場の提供方法を考えます。

- ・ 民間⇄公共
- ・ 集合講座⇄オンライン講座
- ・ 実施規模 など





# 【参考】学びの場の取組事例

## 関心層 “ふくいDXオープンラボ”

(福井県・(公財)ふくい産業支援センター)

- ・ IT技術の導入支援と人材育成を目的に設立され、IoT、AI、RPAなどの技術に関する研修やワークショップを提供し、県内中小企業のデジタル化を推進しています。
- ・ 専門家派遣や無料相談も行い、企業のDX推進をサポートしており、これにより、地域の生産性向上や新たなビジネス創出に貢献しています。



## 無関心層 拒絶層 “高齢者による高齢者のためのスマホ教室”

(島根県松江市・(公社)松江市シルバー人材センター)

- ・ デジタルを活用したサービスが増える中で、デジタル化の恩恵を多くの方が享受できることを目的とし、高齢者へのデジタルデバインド対策の一環として実施している取組です。
- ・ センター登録のシルバー会員みずからが講師を務め、「高齢者の私でもスマホを使ってこんなことしているよ、あなたも一緒にやってみませんか」と参加者と同じ目線に立った講座を実施しています。
- ・ 令和3年度には、延べ400名ほどの参加があり、うち9割以上がもっとスマホの使い方が知りたいという意欲が向上した結果が出ています。



## 中間層 “みんなのネットモラル塾”

(愛知県)

- ・ 愛知県が主催する青少年や保護者向けのネット安全・安心講座で、SNSを介した犯罪やトラブルの事例を学び、フィルタリングの重要性や家庭でのインターネット利用ルールを理解するほか、自撮り被害やネット犯罪など、最近多発している問題についても具体的な対策を学ぶことができます。
- ・ 一部の講座は、警察と合同で重点的に啓発する「県警連携講座」としても開催しています。



## 人財育成 “自治体DXワークカレッジ”

(京都市北部地域連携都市圏形成推進協議会・福知山公立大学)

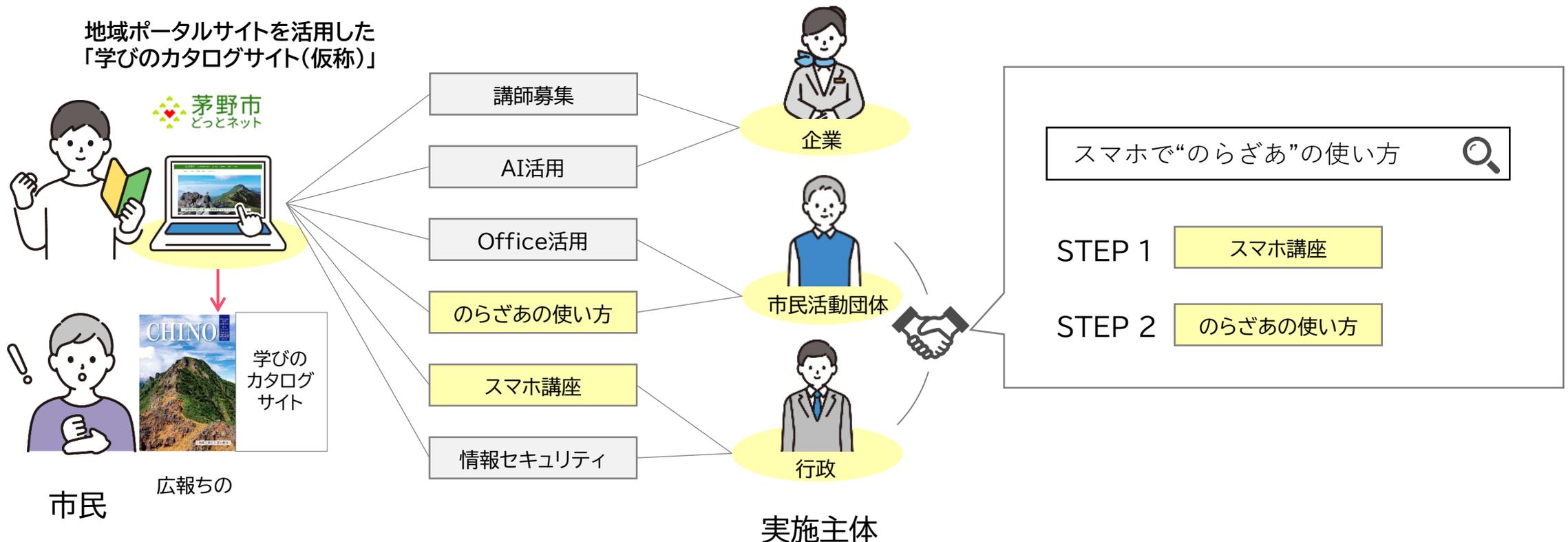
- ・ 自治体DXを進めるうえで必要となる人材の育成を目的として、DXを理解するうえで必要な情報化の現在地や、データサイエンス、その活用から変革をもたらすうえで必要となる考え方など、基礎的な知識の学習や、オープンデータ利用とGISを用いたデータ利活用の実習などの講義を実施しています。
- ・ 行政の効率化、高度化等の行政サービス改革を実践する人材育成に寄与しています。





# 茅野市が取り組むこと

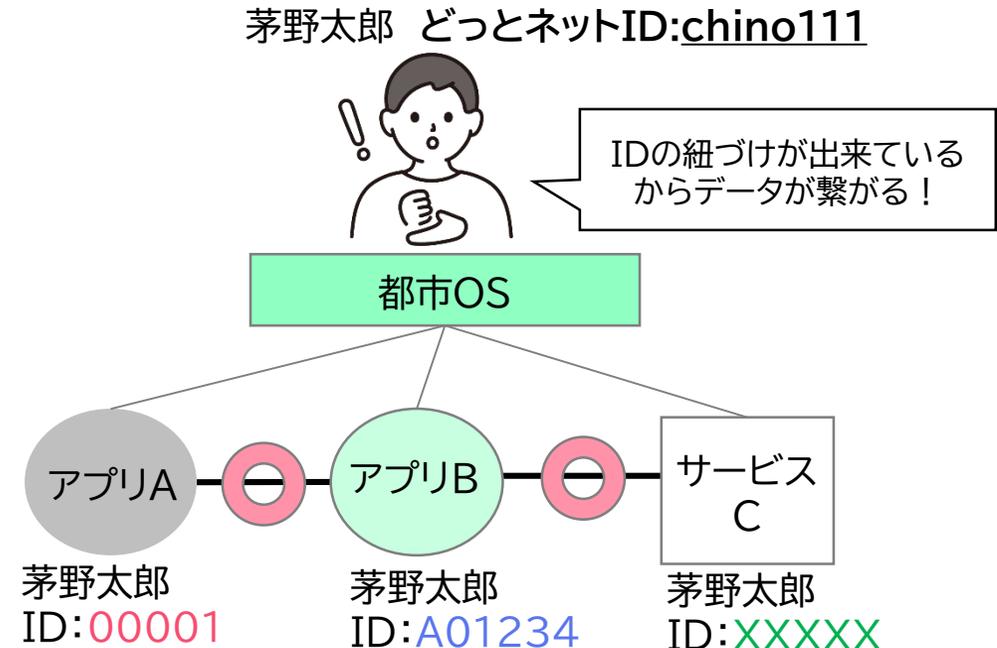
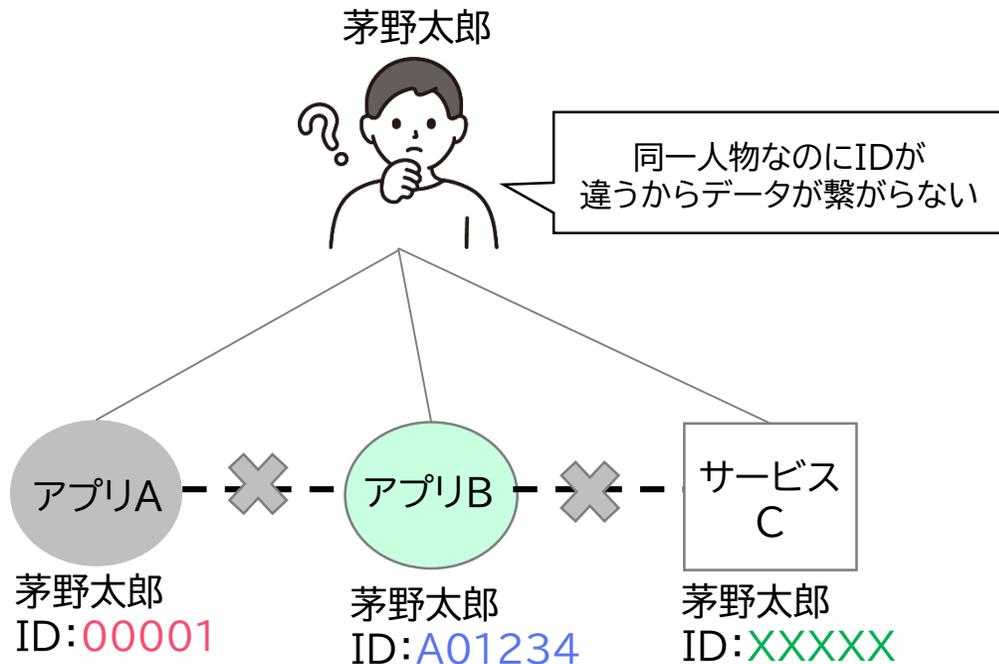
- ・ 様々な団体や企業等が提供しているデジタルに関する学びの場の情報を、ポータルサイトを活用して集約し一覧化することで、市民の皆さんが自分が求める学びを探しやすくします。
- ・ また、一覧化することでそれぞれの学びの関連性が把握できるため、実施主体同士の連携が可能となるとともに、新たな学びの主体の参入が期待され、学びの体系が充実します。





## 第4項 データ連携(データが繋がる仕組み)

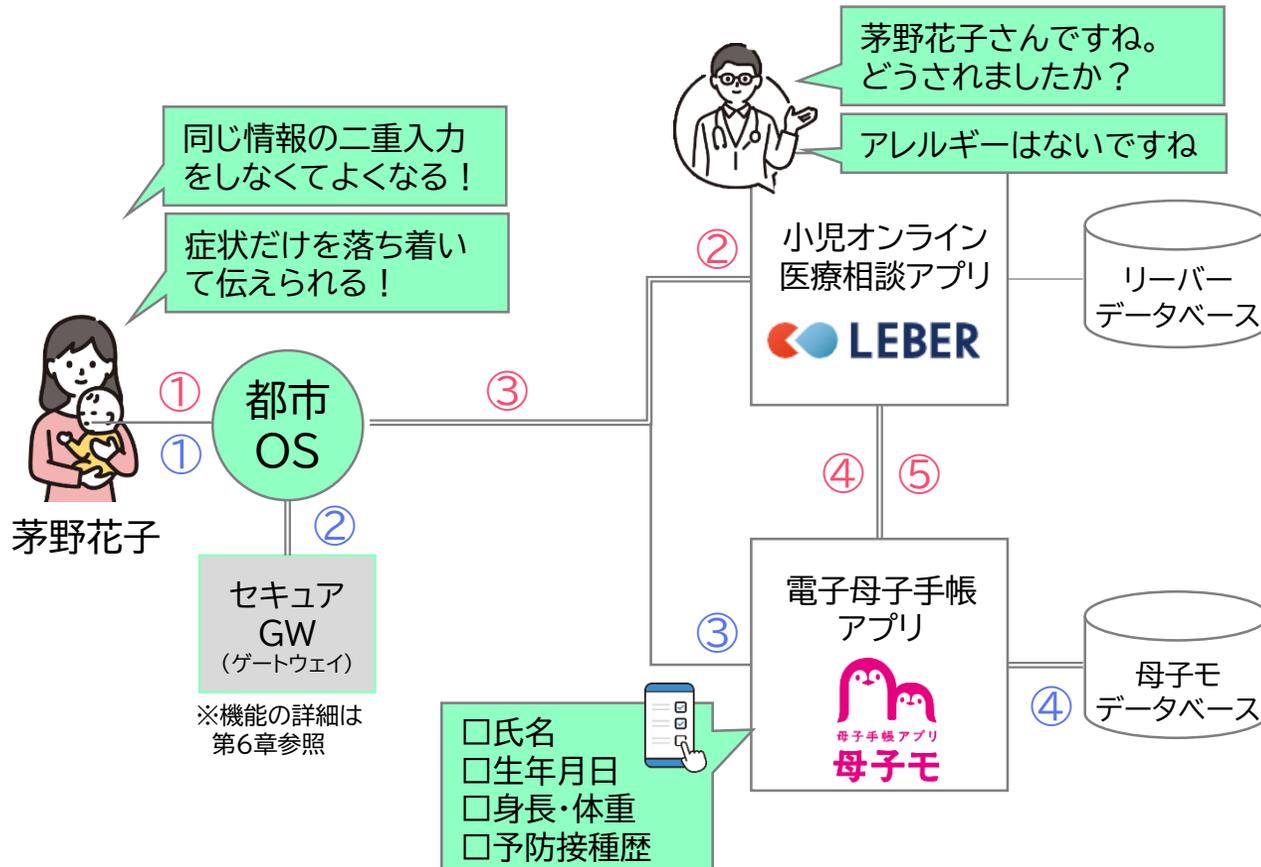
- ・世の中に点在する様々なサービスは、サービスごとに独自のIDで個人データを管理しているため、サービス同士でのデータ連携ができません。
- ・「データ連携基盤(都市OS)」は、各サービスを都市OSに接続しておくことで、都市OSのID(どっとネットID)でそれぞれのサービスにログインできるようになり、複数のIDやパスワードを覚えておく手間が省けます。
- ・また、同一のIDでサービスにログインするため、サービス同士のデータ連携が可能になり、単一のサービスでは実現できなかった“便利さ”や“手間の削減”が図られます。この仕組みがデジタルインフラの基盤となります。





# サービスや情報が繋がる仕組み

都市OSは、事前にそれぞれのサービスが持つIDの紐づけを行っておくことで、1つのサービスが、別のサービスが持つ情報を参照したいときに、その個人が同一人物であることを保証します。これによって各サービスが保有する同一人物の情報をサービス間でやり取りできるようにします。



## 電子母子手帳アプリへ個人情報を入力する流れ

- ①都市OS IDでアプリへアクセス
- ②「セキュアGW」アプリにより本人確認
- ③アプリに個人情報を入力
- ④データベースに情報を保管

## オンライン医療相談をする流れ

- ①都市OS IDでオンライン医療相談アプリへアクセス
- ②医療相談アプリからセキュアGWを経由して、都市OSに、“茅野花子”のIDを確認
- ③都市OSが同一人物であることを返答
- ④電子母子手帳アプリに“茅野花子”の情報を取得依頼
- ⑤同アプリが“茅野花子”の情報を提供

- ・ 同じ情報を入力する二度手間が省ける。
- ・ 必要な情報(子どもの症状など)の伝達に時間をかけることができる。
- ・ 正しい情報が共有される。



# データ連携において守ること

- ・都市OSは、便利である一方で、データの管理や活用に細心の注意を払わなければいけません。
- ・都市OSを活用するにあたっては、以下を厳守します。

## 1 本人の同意なくしてデータ連携は行いません。

データ連携は、本人同意(オプトイン)を必須条件にします。  
ユーザーとなる市民は、いつでも自身のデータの利活用について開始と停止をすることができます。

## 2 データは許可された用途以外には使いません。

個人のデータは、あらかじめ決められた用途以外には使用しません。

## 3 データ連携基盤に接続するサービスの選定をします。

市民が安心して安全にサービスを利活用できるよう、選定基準を定め、接続するサービスを制限します。  
有害なサービスなどは都市OSへ接続しません。

## 4 アプリやサービスに対するデータの取扱いに関する評価を行います。 (PIAの実施) ※PIA (Privacy Impact Assessment) :プライバシー影響評価

アプリやサービスの導入前に、それらがデータをどのように取得、管理、利活用するかを確認、評価し公開します。さらに、サービス導入後も、評価内容どおりの運用がされていることを継続的に確認します。



これらはデータガバナンス部会を中心に推進します。

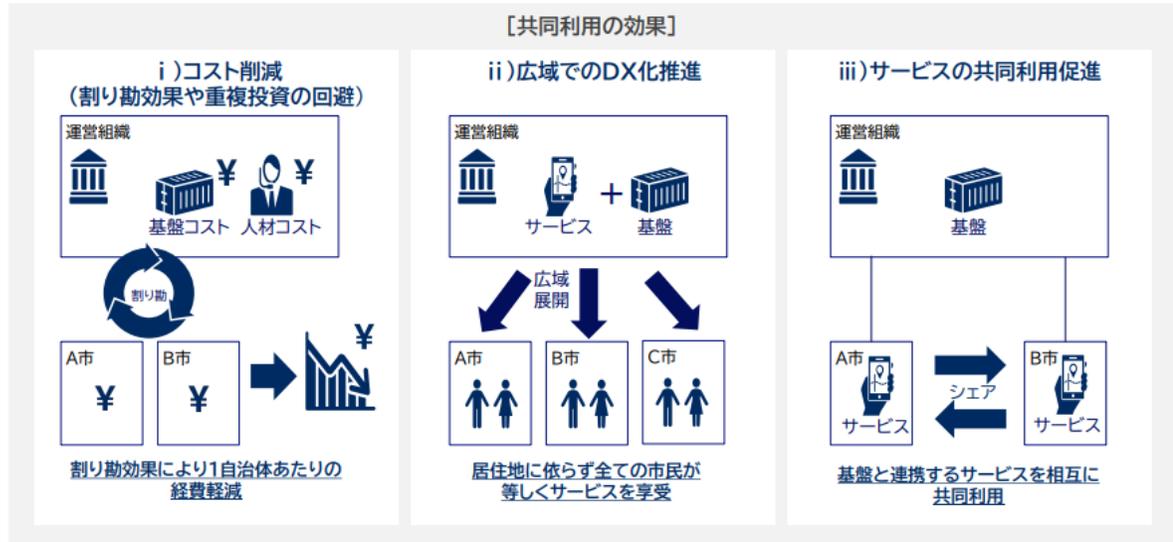


# 【参考】データ連携基盤共同利用ビジョン

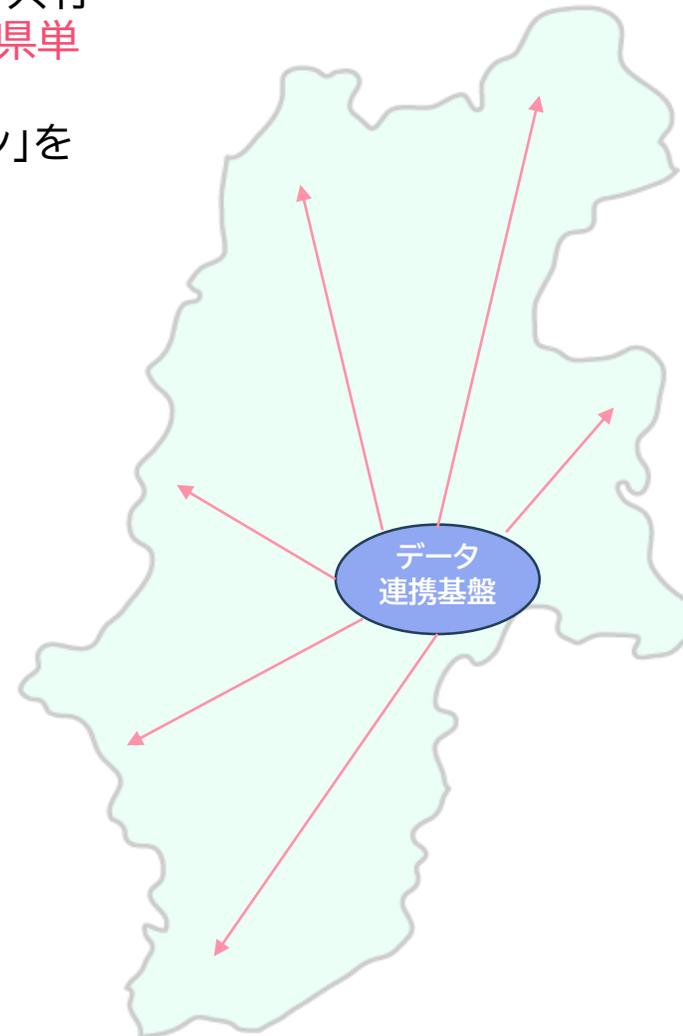
令和4年10月にデジタル庁は、全国でデータ連携基盤の整備・普及が進んでいる一方で、自治体や分野ごとに、バラバラにデータ連携基盤の整備が進むことで、データ連携・共有の範囲に制約が生じたり、類似の機能に対する重複投資が発生しないよう、**都道府県単位のデータ連携基盤の共通利用の方針**を示しました。

これに伴って、令和6年度までに各都道府県はデータ連携基盤の「共同利用ビジョン」を示すこととなっており、長野県でも検討が進められています。

## デジタル庁が示す共同利用における3つの効果



出典 デジタル庁 データ連携基盤の共同利用ガイドブック



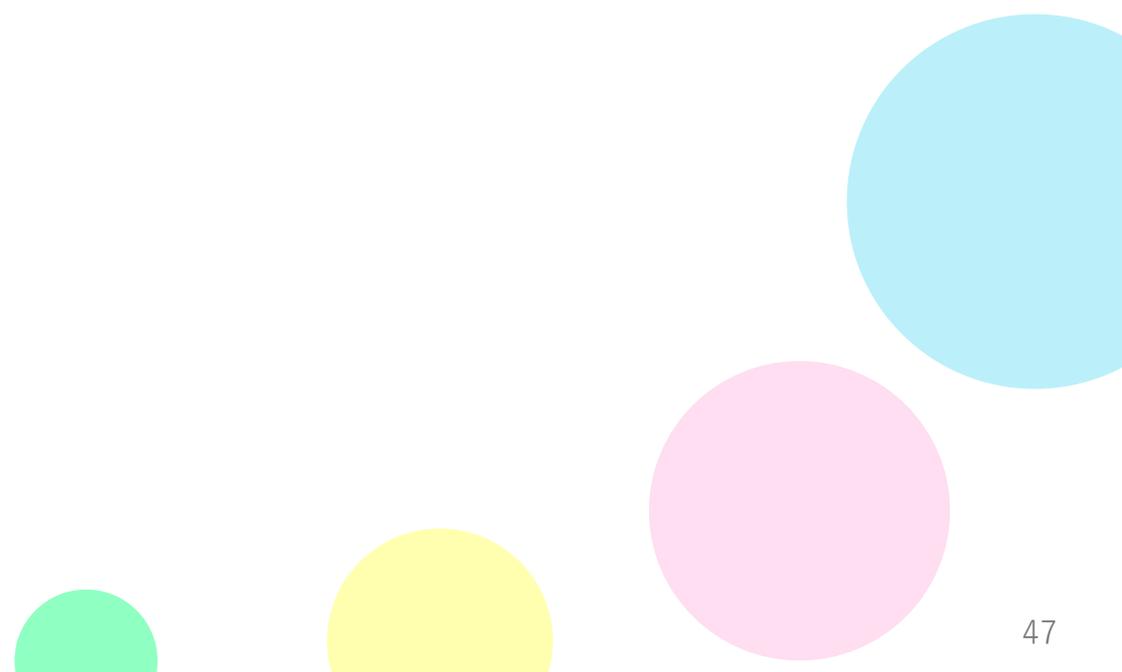


## 第 6 章

# DX事業の展開方法

---

---





# 先行して取り組んできたこと

茅野市では、都市OSを始めとしたDXの基盤となる仕組みやサービスを以下のとおり先行して取り入れ、これから進めていく茅野市のDXの土台を作ってきました。(主なサービス等は、以下のとおり。)

## データ連携基盤関係

### ・都市OS

茅野市のデジタルインフラを支えるデータ連携基盤



### ・茅野市どっとネット(地域ポータルサイト)

都市OSに接続されているポータルサイト、市民の都市OSへの入口  
どっとネットID(共通ID)を作成

### ・セキュアゲートウェイ

データ連携を実行するための本人確認を行う仕組み



## 地域DX関連サービス等

### ・のらざあ

利用者の予約に基づいてAIが最適な運行ルートと配車をリアルタイムで行うAI乗合オンデマンド交通サービス



### ・Mell+ (メルタス)

医療、介護、訪問看護等の関係者間の情報連携ツール

### ・LEBER(リーバー)

0歳～18歳までの子どもを対象に、夜間休日に市外の医師にチャットで医療相談を行うことができるオンラインサービス



### ・母子モ

母子手帳情報の電子化や、来庁予約機能等を有する電子母子手帳アプリ



### ・PLATEAU(プラトー)

3D都市モデルの整備と活用によって全体最適・市民参加型のまちづくりに活用

### ・オープンデータカタログサイト

市が保有する公共データを誰でも二次利用できるように提供



### ・ヤマレコ

登山記録やルートの共有、GPS機能を活用したルートナビゲーションが可能な登山サポートサービス。危険個所情報の共有等も可能



## デジタル田園健康特区事業

・先端的サービスの開発・構築及び規制・制度改革に関する調査事業  
内閣府主導によるデジタル技術を活用した規制改革に係る実証調査事業の支援

### ・特例措置項目の活用

国家戦略特区における規制改革特例措置項目の活用

・規制改革項目の新規提案 法令等の規制改革項目の提案

## 庁内DX関連サービス等

・コンビニ収納 一部税金等のコンビニ収納の実装

・RPAによる業務削減 RPAの活用による行政事務の効率化

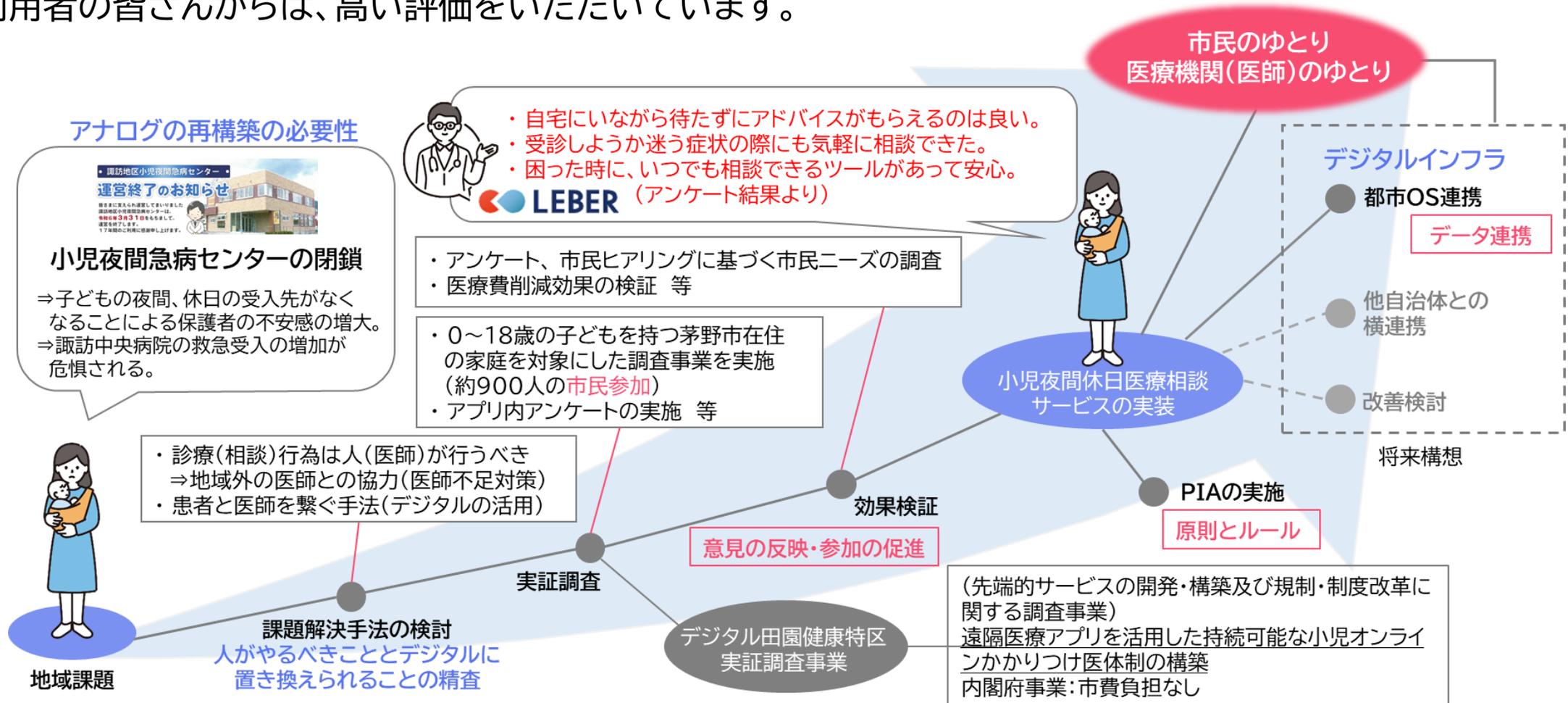
・公共施設予約 市内公共施設の電子予約システム



# 地域DX —令和6年度に事業化したサービスの例—

地域DX

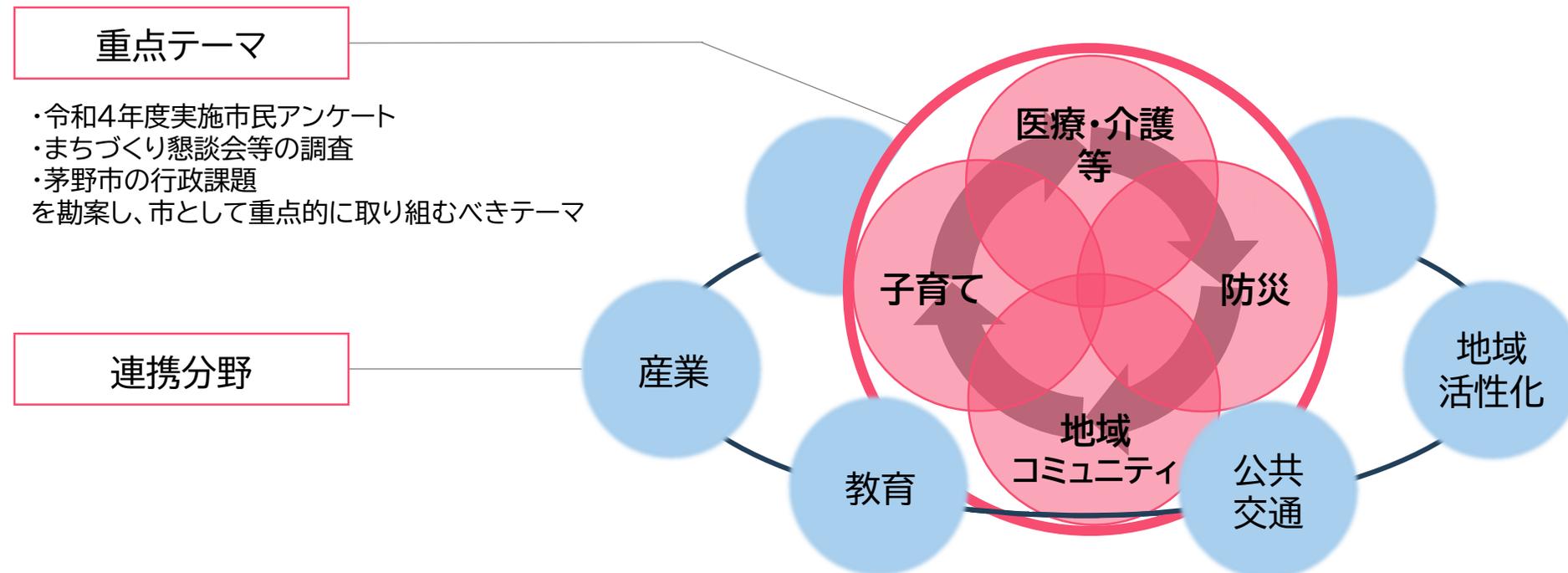
- ・ 令和6年度に導入した、小児夜間休日医療相談サービス「LEBER(リーバー)」は、以下のような流れで事業を進めました。本計画の第4章、第5章は、これらの経験も参考に策定しています。
- ・ 利用者の皆さんからは、高い評価をいただいています。





# 地域DX —これからの取組—

- ・令和7年度からの3年間は、これまで行った市民アンケートの結果や、まちづくり懇談会で挙げられてきた地域課題と、茅野市を取り巻く行政課題を総合的に勘案して、以下のとおり重点テーマを定め、各テーマや、まちづくりにおける普遍的な分野との連携を図りながら、具体的な解決策を検討、実行します。
- ・まずは、市民の皆さんの声をお聞きしながら、重点テーマにおける具体的な課題を把握していきます。

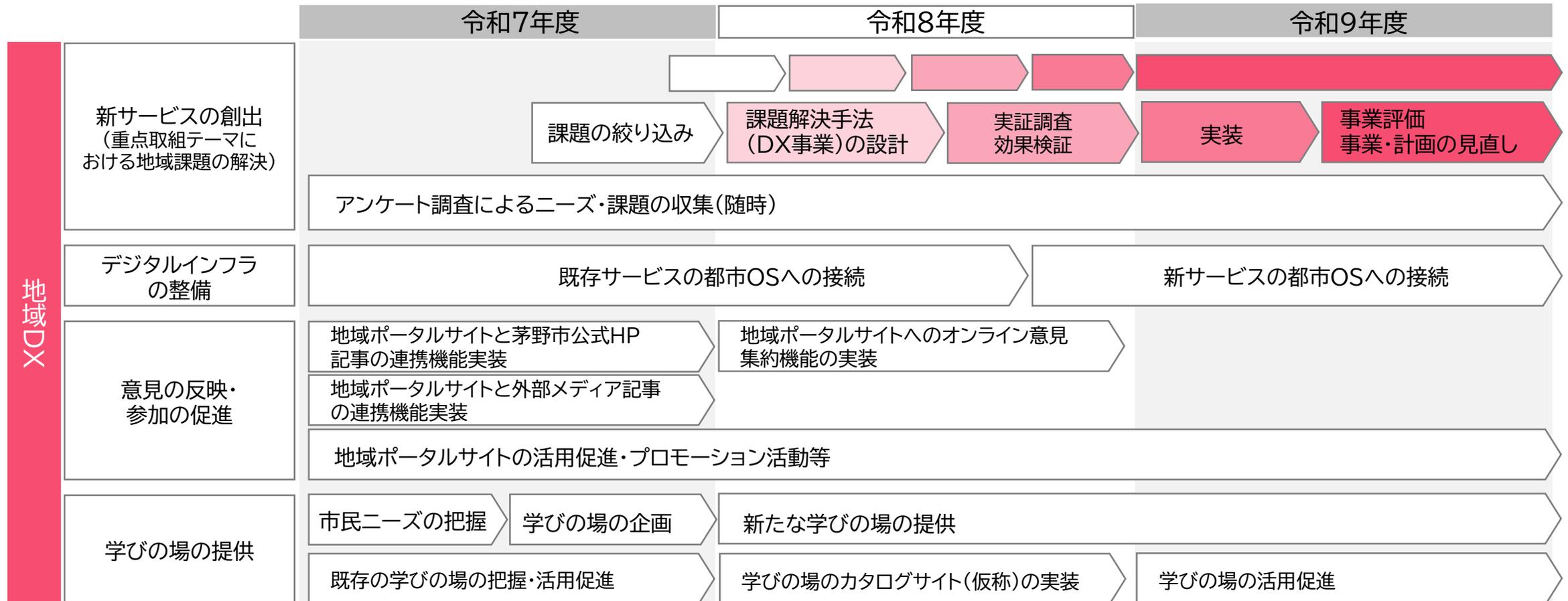




# 地域DX —1期(令和7年度～令和9年度)の進め方—

地域DX

- ・ 地域DXにおいては、本計画に沿って以下のとおり事業を進めます。
- ・ 新サービスの創出については、継続的に市民ニーズや地域課題の収集に努めながら、課題の絞り込み、事業化の検討を進めます。





# 庁内DXの進め方

・市長を先頭に、各部課局の横連携による市役所一体となった庁内DXを推進します。

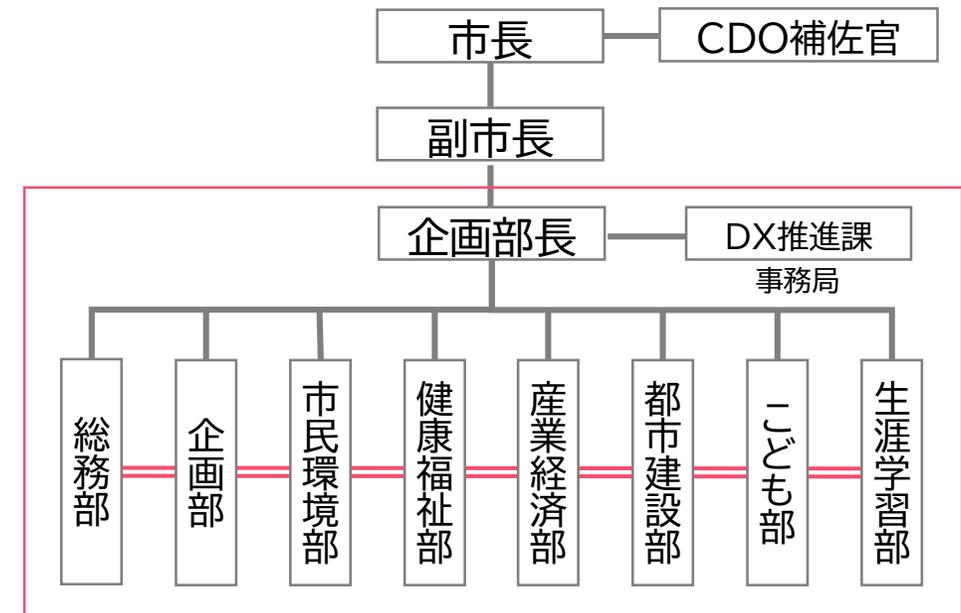
(1)行政事務のコストダウンを図りつつ、利便性の高い行政サービスを提供することで、市民の満足度向上を目指します。

(2)国の動向を注視し、業務効率の向上を図ることで、職員にとって働きやすい、魅力ある市役所を目指します。  
(職員ファーストの庁内DXの推進)

## 庁内DXの重点事業

- 1 国との連動事業
  - ▶ ガバメントクラウド  
(基幹システムの標準化)
  - ▶ マイナンバーの活用
- 2 市民サービスの向上
  - ▶ 申請手続きの簡略化  
(書かない窓口)
  - ▶ キャッシュレス収納
- 3 庁内業務の効率化
  - ▶ AIの活用
  - ▶ RPAの活用
- 4 各々が主導する  
庁内DX事業
  - ▶ 第6次茅野市総合計画に掲げる事業

## 推進体制

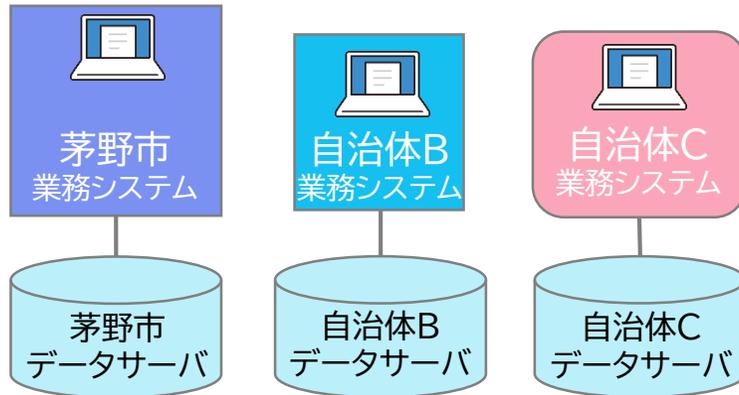


横連携の体制整備については令和7年度中に検討



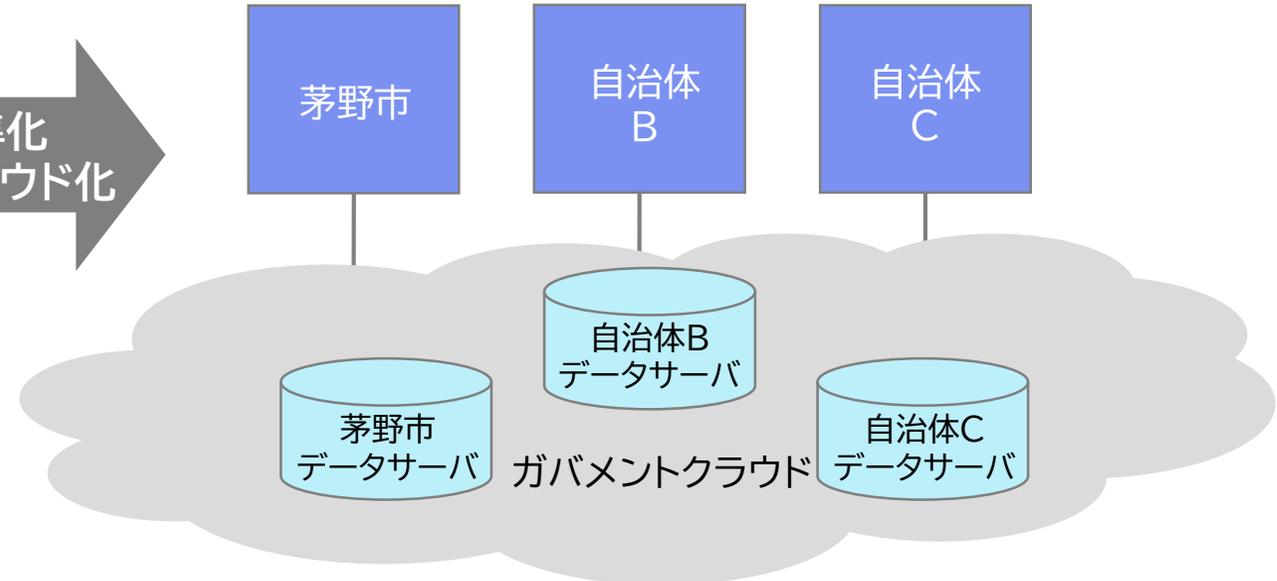
# 庁内DX —これからの取組— ①国との連動事業

- ・ 国では、「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」に基づき、令和8年度から自治体基幹業務の標準化とクラウド化への移行を計画しています。
- ・ 茅野市は、この計画の実施に対して、“アナログの再構築”の手法を活かしながら、基幹業務の効率化を図っていきます。



- ・ 同じ法律に基づく業務なのに自治体によってシステムや作業がバラバラ
- ・ データサーバを各自治体が持つことでコストがかかる

標準化  
クラウド化



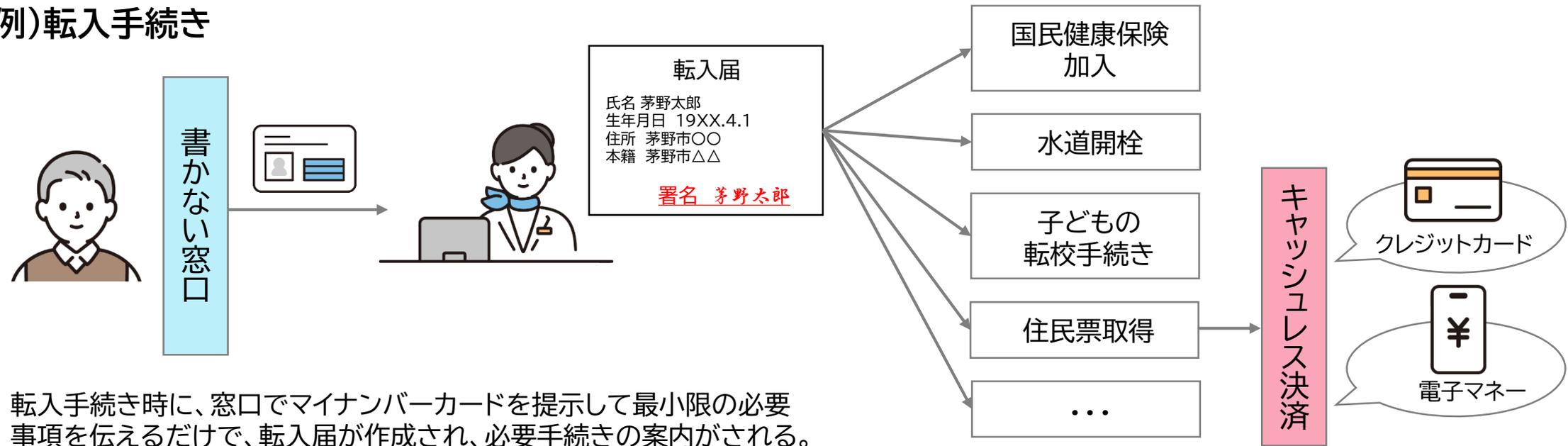
- ・ 業務システム機能を統一することで、全ての自治体業務や情報管理が統一化される
- ・ データサーバをクラウド化することで、情報管理に係るコストが削減される



# 庁内DX ーこれからの取組ー ②市民サービスの向上

- ・「市役所に行くとは何回も同じことを書かされる」「小さい記入欄に小さい字で書くのが難しい」そう感じている方は多いかもしれません。
- ・今後、茅野市はさまざまなデジタル技術と利用者視点を持って、デジタルの得手不得手に関わらない、“全ての人が恩恵を受けられる書かない窓口”を目指して、各窓口手続きの簡略化を進めます。
- ・利便性と非接触の観点からキャッシュレス収納も合わせて推進していきます。また、将来的には、待たない窓口、行かない窓口についても検討を進めます。

## (例) 転入手続き





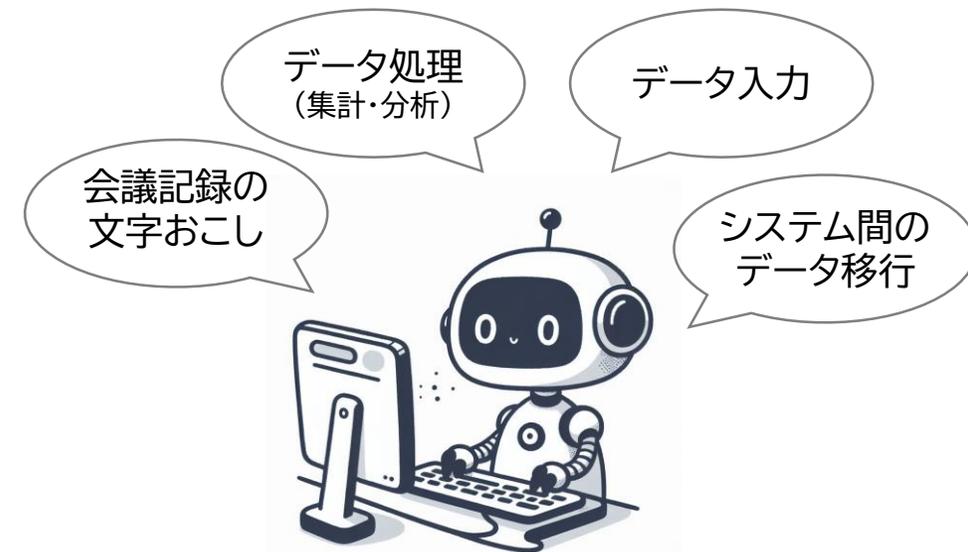
# 庁内DX ーこれからの取組ー ③庁内業務の効率化

庁内DX

- ・ 労働人口減少の流れは市役所も無関係ではなく、限られた人財で行政サービスを維持していくためには、職員一人当たりの生産性を上げていく必要があります。
- ・ 昨今、技術発展が著しい“AI”( Artificial Intelligence)や“RPA”( Robotic Process Automation )などを、安全性と倫理観を確保しながら有効に活用して、人が得意な領域とデジタルが得意な領域をうまく使い分けながら、業務効率の最大化を図ることで、業務改善を目指します。



生成AI“Copilot”生成画像  
プロンプト:「生成AIによって仕事が楽になって人が喜んでいる画像を作ってください」



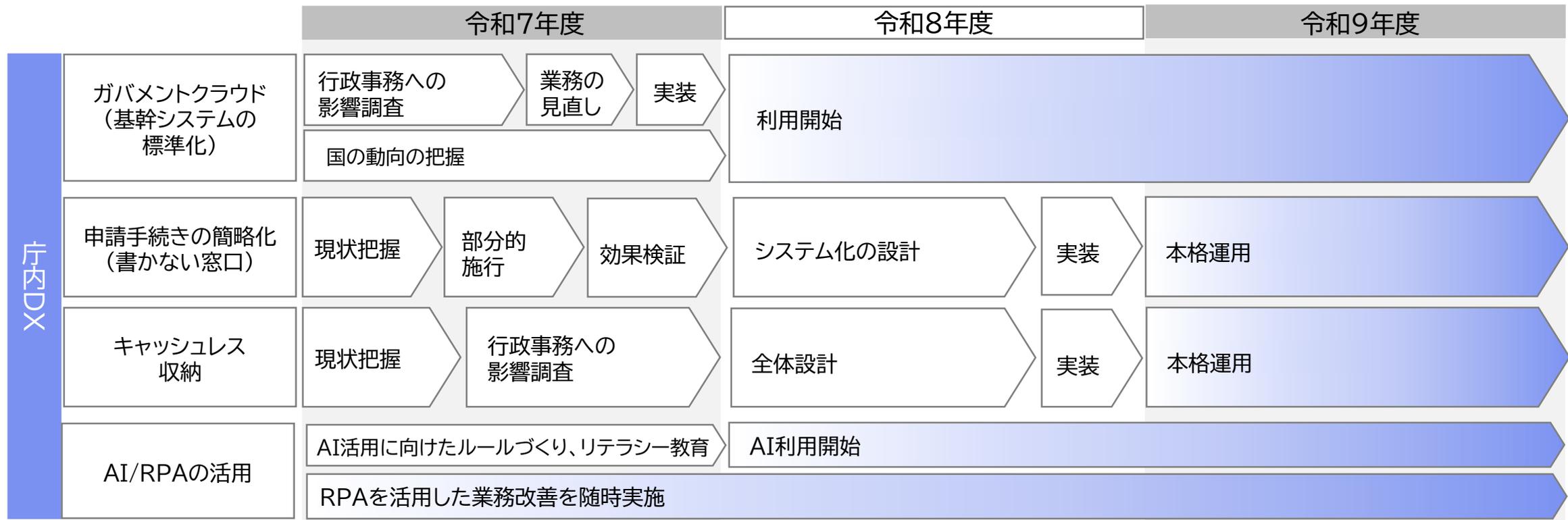
RPAの活用により、作業を自動化することで、業務効率が大幅に向上します。



# 庁内DX —1期(令和7年度～令和9年度)の進め方—

庁内DX

- ・ 庁内DXにおいては、本計画に沿って以下のとおり事業を進めます。
- ・ 首都圏をはじめとする全国からの移住を促進する観点からも、書かない窓口やキュッシュレス収納については、全国の市町村の動向も参考にしながら、導入を進めます。

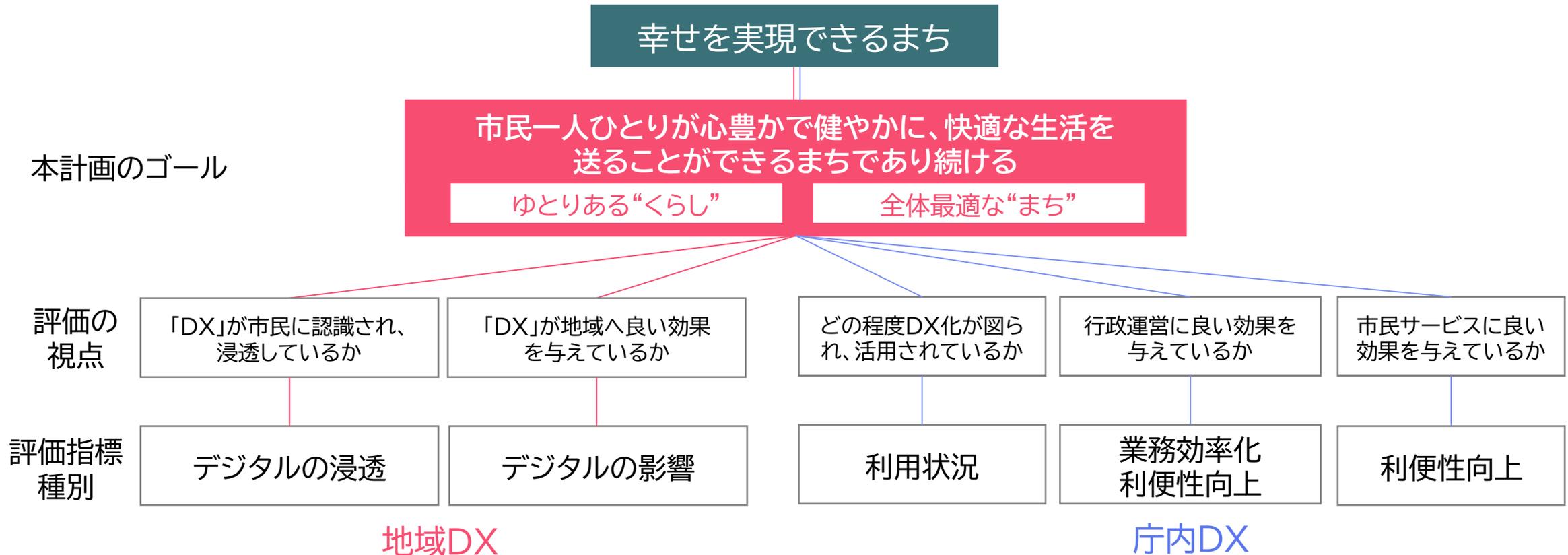


庁内DXの重点事業「④各部が主導する庁内DX事業」については、第6次茅野市総合計画に基づいて実施されるため、本計画ではスケジュールを定めないこととします。



# 目標指標の設定—基本的な考え方—

- ・本計画における最終目標は、市民一人ひとりが心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができるまちであり続けるために、「ゆとりある“暮らし”」と「全体最適な“まち”」を実現することです。
- ・そのために地域DXと庁内DXの推進がどれだけ効果を上げているかを客観的に評価できる指標(目標指標)を以下のとおり定義します。





地域DX

庁内DX

# 各事業における評価指標

	事業	個別評価指標名	評価指標種別	目標値 (2027年)	単位	備考
地域DX	デジタルインフラ	都市OS/ID登録者数	デジタルの影響	5,500	人	
	新サービスの創出 (アナログの再構築)	サービス利用者の サービスに対する満足度	デジタルの影響	60	%	便利になったと回答した 人数/アンケート回答者数
	地域ポータルサイト	アクセス数	デジタルの浸透	6,000	ビュー	2027年度月平均
	学びの場の提供	市が開催する講習会等 の開催数	デジタルの浸透	30	回	令和7年～令和9年まで の延べ数
庁内DX	ガバメントクラウド	行政業務の移行数	利用状況	20	業務	
	書かない窓口	窓口来庁者の満足度	利便性向上	60	%	便利になったと回答した 人数/アンケート回答者数
	AI/RPAの活用	活用業務数	業務効率化	30	業務	令和7年～令和9年まで の延べ数
	キャッシュレス収納	キャッシュレス利用率	利便性向上	10	%	キャッシュレス納付件数/ 施設使用料納付件数 ※税は実装済みのため除く

庁内DXの重点事業「④各部が主導する庁内DX事業」については、第6次茅野市総合計画に基づいて実施されるため、本計画では目標指標を定めないこととします。



# 実施事業報告

地域DX

庁内DX

本計画に基づき実施するDX関連事業については、事業の目的、KPI、事業スケジュール等を統一的に管理し、茅野市公式ホームページにおいて随時、進捗等が確認できるように公表します。

茅野市公式ホームページ  
「茅野市DX関連事業報告」

<https://www.city.chino.lg.jp/site/dx/dxjigyohoukou.html>

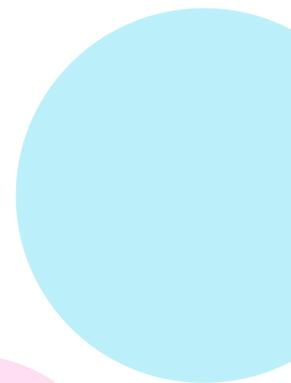
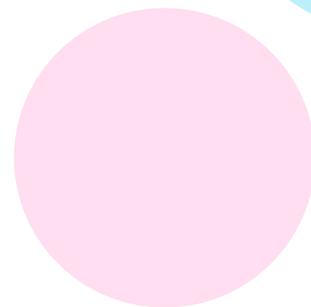
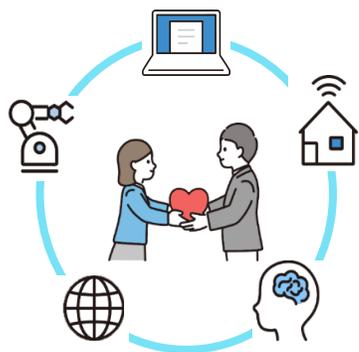




# 資料編

---

---





# 茅野市DX基本計画策定経過 1/3

日時	会議名称	内容
2022/12/14	茅野市DX推進協議会・茅野市DX外部評価委員会 第1回合同会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の設立、評価委員会の設置について</li> <li>・茅野市DX基本計画策定の方向性について</li> </ul>
2023/2/15	第2回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茅野市のDX事業、デジタル田園健康特区の現状について</li> <li>・ワークショップ「皆さんや皆さんの周りの方が抱えている困りごとは何ですか？」</li> </ul>
2023/3/9	第3回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6次茅野市総合計画について</li> <li>・ワークショップ「あなたが幸せに感じることは何ですか？」</li> </ul>
2023/3/22	令和4年度第1回茅野市DX推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茅野市DX基本計画進捗状況について</li> </ul>
2023/5/16	第4回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回、第3回会議の振り返り</li> </ul>
2023/6/14	令和5年度第1回茅野市DX推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茅野市DX基本計画の策定について(取組検討の進め方)</li> <li>・外部評価委員会の検討状況について</li> </ul>
2023/6/26	第5回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の計画策定の進め方について</li> </ul>
2023/7/24	第6回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ「私がイメージする「DX」とは？」、「この委員会で私が持つ役割やかかわり方は？」</li> </ul>
2023/8/22	第7回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX基本計画の骨子(案)について</li> </ul>
2023/9/6	令和5年度第2回茅野市DX推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX基本計画の骨子、DX外部評価委員会検討スケジュールについて</li> <li>・データガバナンス部会の設置について</li> </ul>
2023/10/5	第8回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX基本計画の構成イメージについて</li> </ul>
2023/10/24	第9回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「意見の反映・参加の促進」の検討①</li> <li>・ワークショップ「市内の人にどうやって情報を届けるか」</li> </ul>



# 茅野市DX基本計画策定経過 2/3

日時	会議名称	内容
2023/10/25	第1回データガバナンス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の茅野市にセキュリティについて</li> <li>・PIA概要と諸外国の取組について</li> </ul>
2023/11/22	令和5年度第3回茅野市DX推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期事業報告(DX基本計画関連含む)</li> </ul>
2023/11/29	第2回データガバナンス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進自治体の事例について</li> <li>・DX基本計画の骨子(案)について</li> </ul>
2023/11/30	第10回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「意見の反映・参加の促進」の検討②</li> <li>ワークショップ「より情報が届きやすい情報発信をするためには」</li> </ul>
2023/12/18	第3回データガバナンス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「原則とルール」の検討①</li> </ul>
2023/12/27	第11回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「学びの場の提供」の検討①</li> <li>ワークショップ「デジタルの活用度合いによる必要な学びの機会と解決したい課題」</li> </ul>
2024/1/23	第12回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「学びの場の提供」の検討②</li> <li>・「地域DX展開の考え方」の検討</li> </ul>
2024/1/24	令和5年度第4回茅野市DX推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定の進捗状況について(DX外部評価委員会、データガバナンス部会)</li> </ul>
2024/1/31	第4回データガバナンス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「原則とルール」の検討②</li> <li>ルール(案)の検討</li> </ul>
2024/2/21	第5回データガバナンス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「原則とルール」の検討③</li> <li>(案)のブラッシュアップ</li> </ul>
2024/2/29	第13回茅野市DX外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの柱「学びの場の提供」まとめ</li> <li>・「推進体制」、「地域DX展開の考え方」、「地域DXの全体像」の検討</li> </ul>
2024/3/25	令和5年度第5回茅野市DX推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX基本計画の進捗状況について</li> <li>・地域DXの全体像について</li> </ul>



# 茅野市DX基本計画策定経過 3/3

日時	会議名称	内容
2024/3/26	第14回茅野市DX外部評価委員会	・「地域DXの全体像」の検討② ワークショップ「市民目線での課題解決する手順～暮らし・仕事・遊び～」
2024/3/27	第6回データガバナンス部会	・ 4つの柱「原則とルール」の検討④（案）のブラッシュアップ
2024/4/24	第7回データガバナンス部会	・ 4つの柱「原則とルール」まとめ
2024/4/25	第15回茅野市DX外部評価委員会	・「地域DXの全体像」の検討③
2024/5/30	第16回茅野市DX外部評価委員会	・「地域DXの全体像」まとめ ・「原則とルール」「データ連携」の検討
2024/6/3	令和6年度第1回茅野市DX推進協議会	・「原則とルール」について
2024/7/2	第17回茅野市DX外部評価委員会	・「DXで実現したい思い・世界観」の検討 外部評価委員会が考えるDXとは(第2回～第4回から)
2024/7/29	第18回茅野市DX外部評価委員会	・ DX基本計画素案の確認①
2024/9/6	第19回茅野市DX外部評価委員会	・ DX基本計画素案の確認②
2024/10/29	第20回茅野市DX外部評価委員会	・ DX基本計画素案の確認③
2024/11/7	令和6年度第2回茅野市DX推進協議会	・ DX基本計画素案の確認①
2024/12/5	第21回茅野市DX外部評価委員会	・ DX基本計画素案の確認④
2024/12/17	令和6年度第3回茅野市DX推進協議会	・ DX基本計画素案の確認②
2025/1/6～2/5	パブリックコメント	・ 意見の提出(42件/8人)



# 茅野市DX推進協議会名簿

・任期 令和4年(2022年)12月～令和7年(2025年)3月

氏名	所属	備考
濱田 州博	公立諏訪東京理科大学	協議会会長 任期:令和5年6月～
原田 和郎	諏訪郡医師会	協議会副会長 任期:～令和5年8月～
寺澤 茂	茅野商工会議所	・協議会副会長 ・みんなでeネット
今井 拓	組合立諏訪中央病院	任期:令和6年5月～
竹内 武	茅野市社会福祉協議会	
守屋 正光	茅野商工会議所	茅野市行財政審議会
那須 広行	茅野市金融団	任期:令和6年10月～
熊谷 晃	茅野市地域創生政策監	

※令和7年3月31日時点

# 茅野市DX外部評価委員会名簿

・任期 令和4年(2022年)12月～令和7年(2025年)3月

氏名	所属	備考
百瀬 真希	総合戦略有識者会議	委員長
萩尾 是空	総合計画審議会 みんなでeネット	副委員長
矢崎 敏臣	総合計画審議会	
宮坂 佐知子	行財政審議会	
半田 晴奈	行財政審議会	
鈴木 紘平	行財政審議会	
篠原 敏	新地域公共交通検討会議	
矢崎 高広	総合戦略有識者会議	
深井 孝彦	茅野市精密工業連合会	
広瀬 啓雄	公立諏訪東京理科大学	
山口 一弘	公立諏訪東京理科大学	

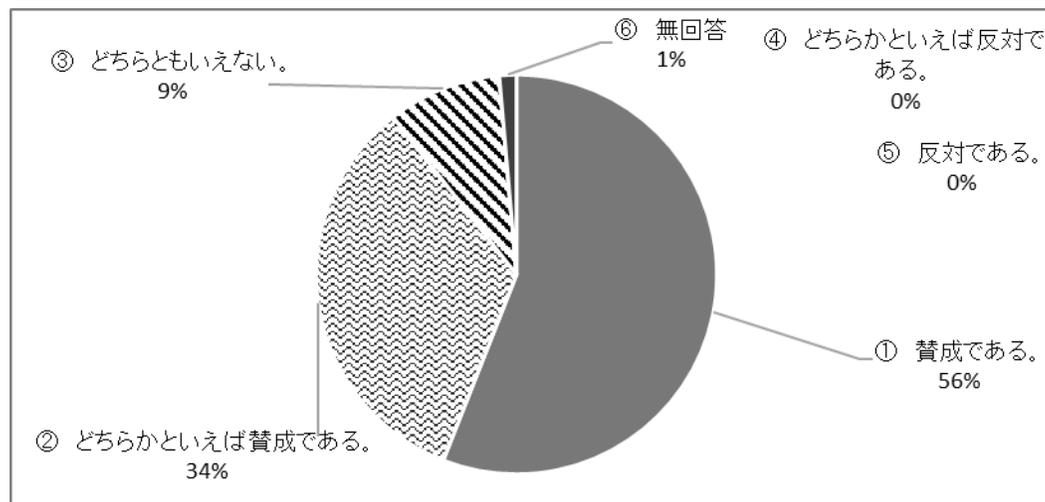


# 【参考】まちづくり懇談会アンケート結果(抜粋) 1/4

令和3年度

6 先端技術を活用した暮らしやすいまちの実現に向けたこれからの取組についてどのように思いますか。

回答区分	累計	
①賛成である。	122	56.0%
②どちらかといえば賛成である。	73	33.5%
③どちらともいえない。	20	9.2%
④どちらかといえば反対である。	0	0.0%
⑤反対である。	0	0.0%
⑥無回答	3	1.4%



7 問6で選んだ理由を選択してください。

回答区分	累計	
①少しでも便利で安心なまちになってほしい。	63	28.9%
②何もしないとまちが衰退していくので、さまざまな取組にチャレンジしていくことが重要である。	63	28.9%
③これからの時代にふさわしい取組である。	40	18.3%
④構想段階であり、内容が抽象的で判断できない。	9	4.1%
⑤市民の意見や思いを取組に反映してほしい。	26	11.9%
⑥取組にあたり多くの費用が掛かることが懸念される。	3	1.4%
⑦ほかの市政の課題を優先して取り組むべきである。	1	0.5%
⑧その他の理由	8	3.7%
⑨無回答	5	2.3%



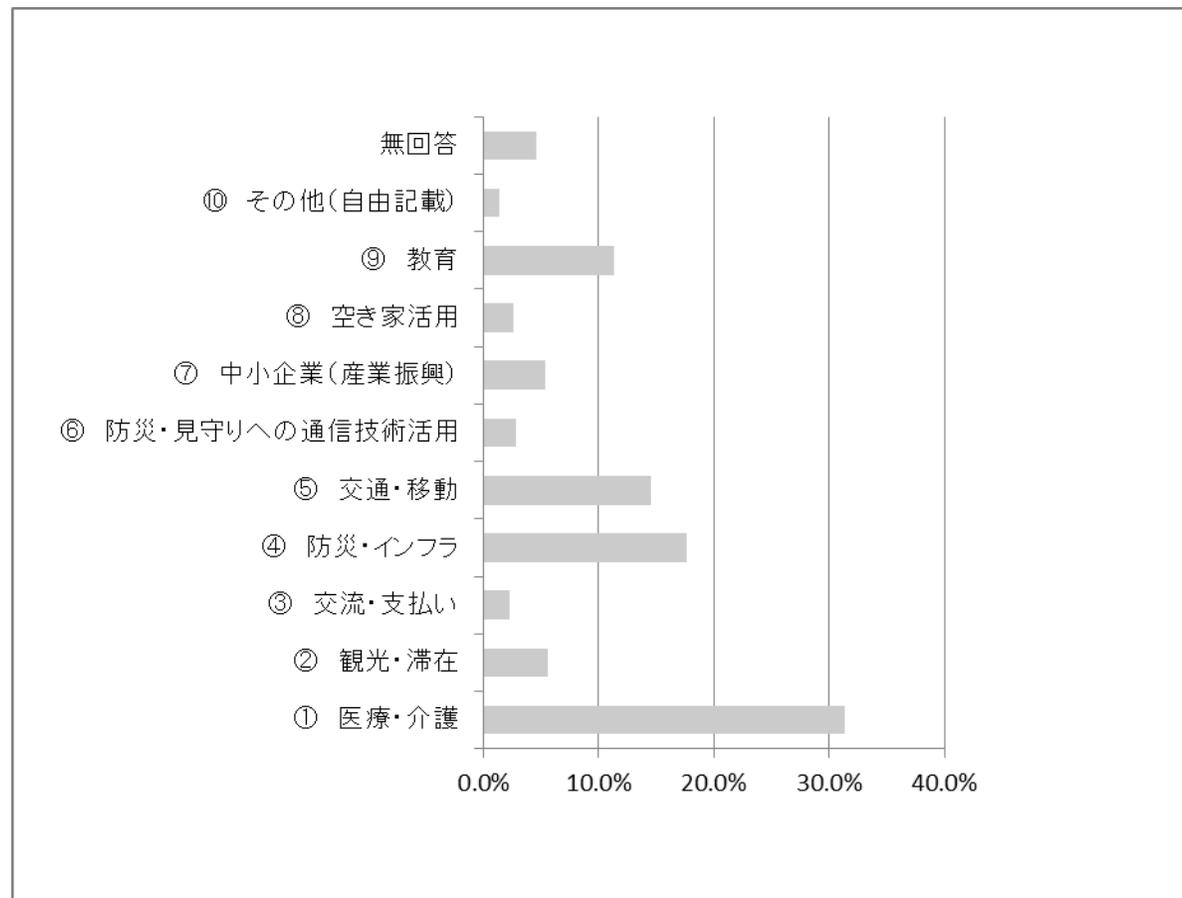
# 【参考】まちづくり懇談会アンケート結果(抜粋) 2/4

令和3年度

8 DXの取組分野として優先して進めるべきだと考える順に順位を付けてください。

回答区分	累計	
①医療・介護	410	31.3%
②観光・滞在	74	5.7%
③交流・支払い	30	2.3%
④防災・インフラ	231	17.7%
⑤交通・移動	191	14.6%
⑥防災・見守りへの通信技術活用	37	2.8%
⑦中小企業(産業振興)	71	5.4%
⑧空き家活用	35	2.7%
⑨教育	149	11.4%
⑩その他(自由記載)	19	1.5%
⑪無回答	61	4.7%

1番～3番までの回答を求め、1番を選んだものを3点、2番を選んだものを2点、3番を選んだものを1点として計算。



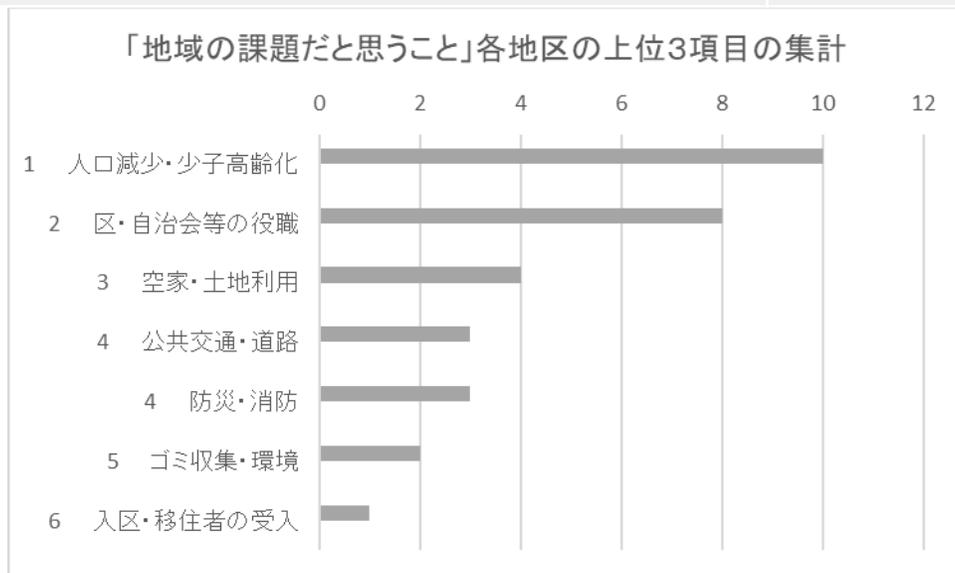


# 【参考】まちづくり懇談会アンケート結果(抜粋) 3/4

## 令和4年度

6 あなたがお住まいの地域について、課題だと思うことは何ですか。  
(複数選択可) 各地区上位3項目の集計

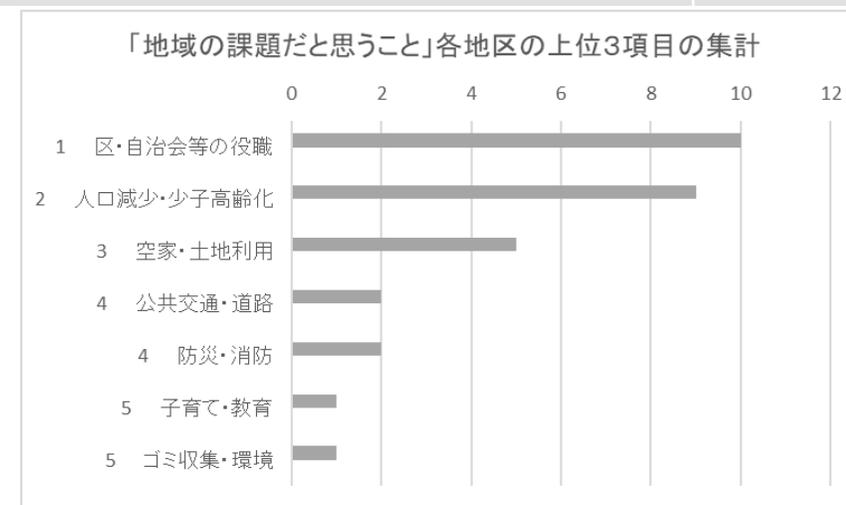
回答区分	累計
1 人口減少・少子高齢化	10地区
2 区・自治会等の役職	8地区
3 空家・土地利用	4地区
4 公共交通・道路	3地区
5 ゴミ収集・環境	2地区
6 入区・移住者の受入	1地区



## 令和5年度

6 あなたがお住まいの地域について、課題だと思うことは何ですか。  
(複数選択可) 各地区上位3項目の集計

回答区分	累計
1 区・自治会等の役職	10地区
2 人口減少・少子高齢化	9地区
3 空家・土地利用	5地区
4 公共交通・道路	2地区
4 防災・消防	2地区
5 子育て・教育	1地区
5 ゴミ収集・環境	1地区



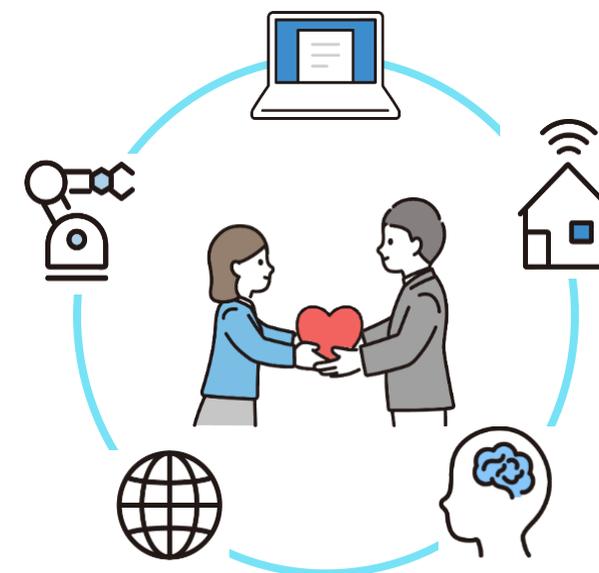
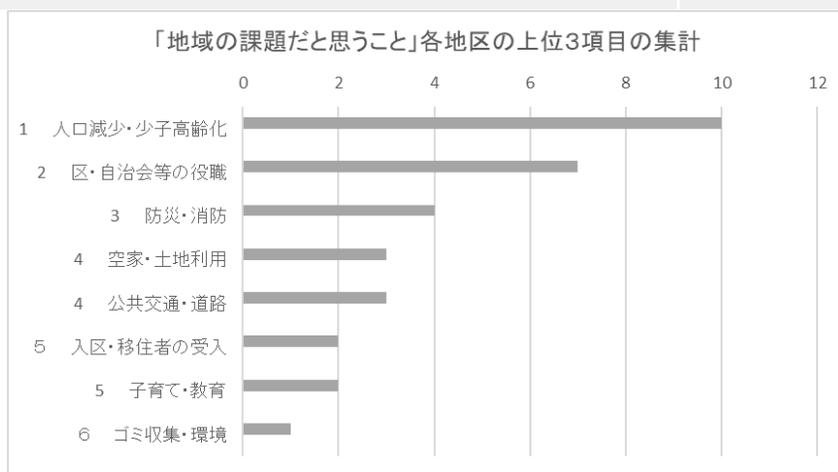


# 【参考】まちづくり懇談会アンケート結果(抜粋) 4/4

令和6年度

6 あなたがお住まいの地域について、課題だと思うことは何ですか。  
(複数選択可) 各地区上位3項目の集計

回答区分	累計
1 人口減少・少子高齢化	10地区
2 区・自治会等の役職	7地区
3 防災・消防	4地区
4 空家・土地利用	3地区
4 公共交通・道路	3地区
5 入区・移住者の受入	2地区
5 子育て・教育	2地区
6 ゴミ収集・環境	1地区





# 【参考】令和4年度茅野市市民意識調査結果(抜粋) 1/3

## ・ 調査の概要

対象者:茅野市内に居住する満18歳以上の男女2,000人(住民基本台帳から無作為抽出)

調査期間:2023年1月10日(火)~1月31日(火)

調査方法:紙による調査票またはインターネット(アンケートフォームへの入力)による回答

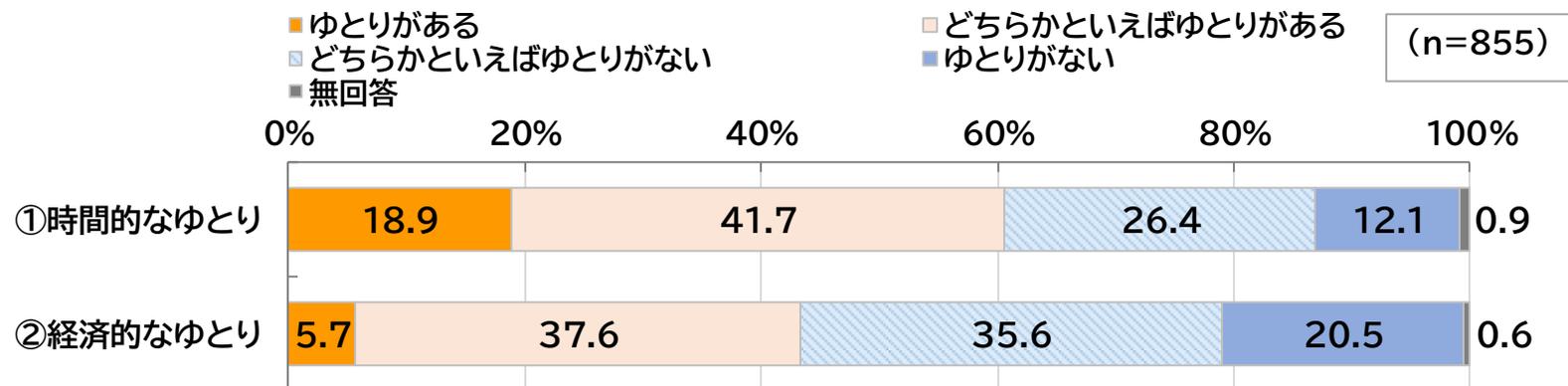
## ・ 回収結果

有効回収数:861人

有効回収率:43.0%

問10 普段の暮らしにおける時間的なゆとりと、経済的なゆとりの有無についてお聞かせください(それぞれ1つに○)☒

	ゆとりがある	どちらかといえばゆとりがある	どちらかといえばゆとりがない	ゆとりがない	無回答	合計
①時間的なゆとり	162	358	227	104	8	859
②経済的なゆとり	49	323	306	176	5	859





# 【参考】令和4年度茅野市市民意識調査結果(抜粋) 2/3

問12 茅野市での暮らしの様々な場面について、あなたの考えをお聞かせください☒(それぞれ1つに○)☒

	非常に当てはまる	ある程度当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	無回答	合計	平均点
①茅野市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	20	230	399	162	47	1	859	3.02
②茅野市では、新たな発見や刺激が得られる	14	121	384	262	77	1	859	2.69
③茅野市には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある	10	139	406	220	82	2	859	2.74
④茅野市は、日常の買い物に不便や苦勞がない	81	376	186	178	33	5	859	3.34
⑤茅野市は、医療機関が充実している	57	387	273	117	21	4	859	3.40
⑥茅野市の公共施設は使い勝手がよく便利である	25	228	390	168	35	13	859	3.05
⑦茅野市は、路上にゴミを捨てる人が多い【逆転】	37	124	304	329	61	4	859	3.30
⑧茅野市では、ゴミ出しや生活ルールを守らない人が多い【逆転】	29	137	352	293	41	7	859	3.21
⑨茅野市では、身近に自然を感じることができる	441	364	43	6	1	4	859	4.45
⑫茅野市の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	412	357	68	15	2	5	859	4.36
⑰茅野市の雰囲気は、自分にとって心地よい	76	363	337	60	20	3	859	3.48
⑳茅野市の時間の流れ方は、自分にあっている気がする	76	361	351	53	14	4	859	3.51
㉑茅野市(行政)の政策には、賛同できる	19	217	470	116	33	4	859	3.09
㉒茅野市(行政)は、地域のことを真剣に考えていると思う	18	232	421	147	37	4	859	3.05
㉓茅野市(行政)の窓口は、親切で好感が持てる	81	356	308	85	24	5	859	3.45

※項目内に【逆転】の記載があるものは、あてはまるほどネガティブな項目である。



# 【参考】令和4年度茅野市市民意識調査結果(抜粋) 3/3

問18 あなたの区(または自治会)や近所の人との関係性について、あなたの考えをお聞かせください(それぞれ1つに○)☒

	そう思う	どちらか という そう思う	どちらで もない	どちらか という そう思 わない	そう思 わない	無回答	合計	平均点
③私は、私の区(または自治会)に対して愛着を持っている	26	207	364	132	114	16	859	2.88
⑨私は、市外(集落の外)からやってきた人が私の区(または自治会)に定住することは喜ばしいことだと思う	194	387	232	10	22	14	859	3.85
⑩私は、同じ区(または自治会)の人が困っていたら手助けをする	105	431	276	15	17	15	859	3.70
⑪私は、必要とされれば、同じ区(または自治会)の人の相談に乗る	89	380	308	42	25	15	859	3.55
⑫私は、ささいなことでも、私の区(または自治会)の役に立つことであれば提案する	34	192	407	141	74	11	859	2.97
⑬私は、私の区(または自治会)をより良くするためのアイデアを持っている	13	81	409	207	137	12	859	2.56
⑭私は、私の区(または自治会)において積極的に活動し、貢献している	23	130	325	185	184	12	859	2.55
⑳このままでは、私の区(または自治会)が、今より悪くなってしまうと思う	64	116	426	161	78	14	859	2.91
㉑将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	319	376	136	10	6	12	859	4.17
㉒区(または自治会)が受け継いできた伝統を受け継いでいくべきだと思う	115	261	346	85	41	11	859	3.38
㉓伝統に縛られずに、新しい文化をつくるべきだと思う	105	304	385	39	14	12	859	3.53
㉔市外(または他の区・自治会)から、違った考え方や価値観を取り入れるべきだと思う	129	323	370	20	8	9	859	3.64

# 「茅野市のDX」の全体像

## 茅野市の現状

### 強み

新たな知見や価値観を取り込み、より良いまちの実現につなげることができるポテンシャルを有している

### 弱み

限られた人手で貴重な自然の保全と点在する施設等の老朽化に対応し、市民の健康と産業の活性化を図り、「まち」を維持していく必要がある

### 機会

国は、各種支援策や特区制度を活用し、地域におけるデジタル技術やデータ活用を強力に支援

### 脅威・不安

コロナ禍により明らかになった日本全体としてのデジタル化の遅れに対し、地域がばらばらにデジタル化に取り組んでいる

➡ 国家戦略特区である「デジタル田園健康特区」の指定が追い風となり、デジタル技術やデータを活用し、全国の地方都市のモデルとして、地域が抱える課題の解決に先進的に取り組むことができるチャンス  
出典 茅野市DX基本構想

## 重点テーマ(P50)

重点テーマ	連携分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護等</li> <li>防災</li> <li>地域コミュニティ</li> <li>子育て</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業</li> <li>教育</li> <li>公共交通</li> <li>地域活性化 等</li> </ul>

・令和4年度実施市民アンケート  
・まちづくり懇談会等の調査  
・茅野市の行政課題を勘案し、市として重点的に取り組むべきテーマ

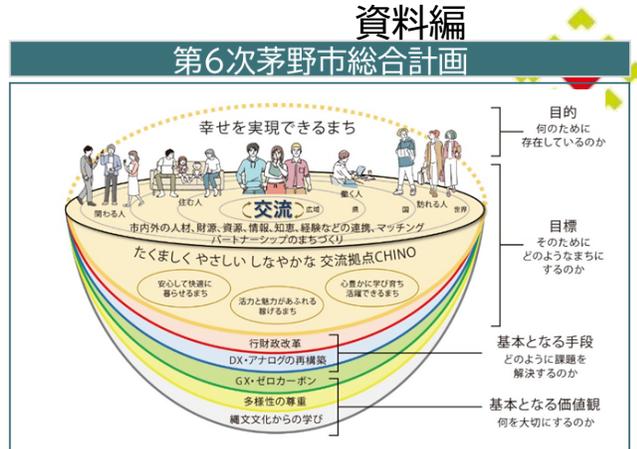
DXスタイル 3MS&14H 重点テーマ及び取組施策例(令和7年～令和9年)

市民一人ひとりが心豊かで健やかに快適に生活できるまちであり続ける  
たくましく やさしい しなやかな交流拠点CHINO

「ゆとり」ある“暮らし” 「全体最適」な“まち”

	共創	ヒューマンファースト	透明性の確保				
	随時市民の声と力を取り入れていく仕組み DXに関わる全ての人々が助け合って参画する仕組み	市民生活の課題を起点としたDX デジタルの得手不得手に関わらず、誰もが最大限に恩恵が受けられるDX	DX導入の目的、経過等の透明性の確保 データとセキュリティの安全性の確保				
対象者	未就学児	児童・学生	子育て世帯	労働者	高齢者	要支援者・家族	別荘居住者・観光客
医療・福祉	母子健康手帳電子化		PHRを活用した健康増進	安心安全な在宅ケアの実現			
防災・減災	夜間小児オンライン相談の実現						
コミュニティ	避難支援の充実						
子育て・教育	区・自治会の負荷軽減						
インフラ	地域情報の集約・発信(ポータルサイトの充実)						
産業振興	保育園等⇄保護者の連絡ツール導入						
観光移住	“のらざあ”等、新たな交通システムの構築						
行政(庁内)	登山者支援						
(凡例)	書かない窓口						
・(一部)導入済サービス等	キャッシュレス収納						
・本計画等に基づき導入するサービス							

包含



## DXの仕組み

### 基本となる手法(P17)

デジタルインフラの活用

くらしや仕事の見直し(アナログの再構築)

YES or NO

これって私がやること?

### 4つの柱(P28~)

<h4>原則とルール</h4> <ol style="list-style-type: none"> <li>市民サクセス</li> <li>透明性と権利保護</li> <li>安心・安全第一のサービス設計</li> <li>市民協働ガバナンス</li> <li>データリスクの見える化と対応策の実施</li> </ol>	<h4>意見の反映・参加の促進</h4> <p>意見反映の仕組み</p> <p>誰もが参加できる機会の提供</p> <p>効果的な情報発信</p>
<h4>学びの場の提供</h4> <ol style="list-style-type: none"> <li>スマートシチズンの育成と創出</li> <li>持続可能な学びの場の展開</li> </ol>	<h4>データ連携</h4> <p>データ連携基盤(都市OS)の活用</p> <p>データ連携の注意点</p>



# 【参考】第6次茅野市総合計画に掲げる各部主導事業

## ●安心して快適に暮らせるまち

大項目	中項目	事業内容	DX区分
社会福祉	生活基盤・セーフティネットの整備による在宅福祉の推進【高齢者福祉】	福祉21茅野の提言に基づく外出支援のあり方の見直し	地域DX
社会福祉	地域を基盤とした自立生活の支援【障害者福祉】	障害者のニーズを公共交通の仕組みに反映する提案を行いながら、AIオンデマンド交通「のらざあ」を含め、障害者や高齢者が利用しやすい移動手段の検討と移動支援事業の利用促進	地域DX
社会福祉		デジタルツールの導入による在宅医療と介護の連携の推進	地域DX
健康・食育	がん検診の受診率向上、生活習慣病の重症化予防【からだの健康】	SNSなどを使った効果的な情報発信、デジタルツールなどによる簡単な申込み方法の提供等による大腸がん検診の受診率向上	地域DX
健康・食育		デジタルツールの導入による母子健康手帳の電子化と各種手続きの利便性向上	地域DX
地域医療	医療提供体制の充実	医療・介護の現場における働きやすい環境づくりを目指し、業務の効率化、省力化や規制緩和によるタスクシフト、デジタル技術の活用などを推進	地域DX
地域医療	医療提供体制の充実	高齢者、障害者などの交通弱者に対し、病院への移動手段を確保	地域DX
道路・河川	安全・快適な道路・河川の構築	測量・調査・工事施工等のICT化	庁内DX
道路・河川	安全・快適な道路・河川の構築	工事書類の電子化	庁内DX
上下水道		デジタル技術を活用した経営改善、施設管理	庁内DX
上下水道		ストックマネジメントシステムの導入による、施設の維持管理・更新のPDCAサイクル手法のデジタル化	庁内DX
公共交通	地域内公共交通の構築	別荘地・観光地までの移動手段の構築	地域DX
公共交通	地域内公共交通の構築	AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」の運行形態の見直しと運行効率の向上	地域DX



# 【参考】第6次茅野市総合計画に掲げる各部主導事業

## ●安心して快適に暮らせるまち

大項目	中項目	事業内容	DX区分
防災・減災		DXを活用した情報発信手段などの検討	地域DX
行政経営	市民サービスの質の向上	市役所業務の工程を見直し、置き換え可能な部分にAI・RPAやデジタル技術を導入することにより生み出された人の手を、人の手が必要な市民サービスにしっかり充てる仕組みづくり	庁内DX

## ●心豊かに学び育ち活躍できるまち

大項目	中項目	事業内容	DX区分
子育て		デジタルツールの導入による小児オンライン相談サービス	地域DX
子育て		デジタル技術を活用したアンケートなどと、その結果に応じた電話、訪問などによるきめ細やかな支援の実現	地域DX
子育て		児童手当・児童扶養手当システムの標準化	庁内DX
子育て		ケース記録のデータベース化	庁内DX
教育		デジタルツールの導入による入所受付などの保護者の利便性向上	地域DX
教育		ICT教育による個別最適な学びの実践	地域DX
生涯学習	一人ひとりの多様な学ぶ意欲に応える機能の充実【図書館】	人・地域・情報が直接つながりあうリアルな図書館機能の充実と並行して、「デジとしよ信州」をはじめとする電子媒体の整備・活用促進を図ります。	地域DX
生涯学習		デジタル技術を活用した学びと、ふれあいのある集いの場との融合	地域DX
生涯学習		電子書籍等の利用促進	地域DX



# 【参考】第6次茅野市総合計画に掲げる各部主導事業

## ●心豊かに学び育ち活躍できるまち

大項目	中項目	事業内容	DX区分
生涯学習		地域資料のデジタル化	地域DX
生涯学習		デジタルコンテンツによる展示の補足	地域DX
文化財	尖石縄文考古館の充実	従来型の講座だけではなく、オンラインの講座の開催や動画配信、デジタルデバイスを活用した館内展示の強化、市民ガイドの育成などを通じて、広く縄文文化の具体像とその内面にある本質を発信していきます。	地域DX
スポーツ		デジタル技術を活用した施設管理	庁内DX
共生社会		様々な人や市民団体などがまちづくりへ参画したり、協働するためのデジタル技術の活用検討	地域DX

## ●活力と魅力があふれる稼げるまち

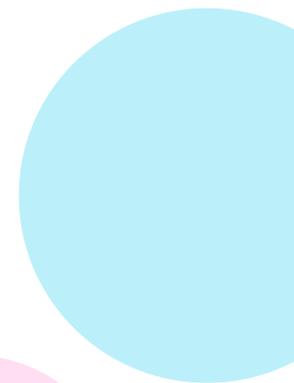
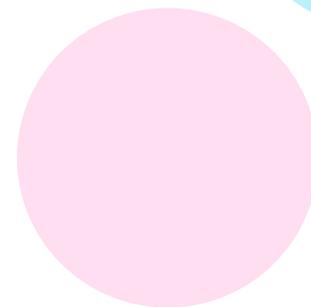
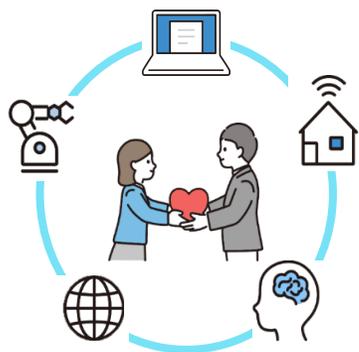
大項目	中項目	事業内容	DX区分
商工業	工業振興の推進	「デジタル田園健康特区」への指定を契機に、都市部の企業などから、デジタル技術やデータを活用した新たなサービスなどの実証フィールドとして茅野市が選ばれるケースが増えており、こうした流れが、新たな産業の創出や、市内企業の新たな分野への参入促進などにつながるような支援を検討	地域DX
商工業	工業振興の推進	製造業において、生産性向上に向けた作業工程の見直しと、DXの導入	地域DX
観光		新規顧客の獲得などに向けたデジタル技術やデータの活用検討	地域DX
シティプロモーション・広聴		SNSなどのメディアやデジタルツールを使った情報発信と、デジタルツールを活用したターゲットや	地域DX
シティプロモーション・広聴		ニーズの明確化により、茅野市の魅力などを伝える効果的なシティプロモーションを展開 デジタルツールを活用した、より多くの人の声を集める新たな手法を研究し、取り入れていきます。	地域DX



# 用語集

---

---





	用語	解説
あ	アーキテクト	建築家や設計者を意味し、IT分野では、システムやソフトウェアの設計を行う専門家のことを指す。スーパーシティ(デジタル田園健康特区)においては、地域課題の設定、事業計画の作成、先端技術の活用など、スーパーシティ構想全体を企画する者を指す。なおスーパーシティ構想の公募条件にアーキテクトを置くことが定められている。
	RPA(アールピーイー)	Robotic Process Automationの略。人間が行う反復的な作業や業務をロボットやプログラムなどを活用して自動化する技術。
	IoT(アイオーティー)	Internet of Thingsの略。世の中に存在する様々な”モノ(家電など)”にセンサーや通信機能を内蔵して、モノが感知したデータをインターネットを通して相互に通信することにより自動認識や自動制御、遠隔操作などを行う技術。(例:スマート家電、自動運転など)
	アイデアソン	「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語。短期間で集中的に新しいアイデアを生み出すための討論などを行うイベント形式の活動。
	IT(アイティー)	Information Technologyの略。「情報技術」を指し、コンピュータやインターネットを用いて情報を収集・処理・保存・伝達する技術の総称。AIやIoTはIT技術の一種に分類される。
	ID(アイディー)	「識別子」を意味するidentifierの略。個人や機器を識別するための符号。IDによる識別によって、個々のユーザー(利用者・顧客)や機器に対して適切なアクセス権限(接続や閲覧の制限)を設定し、セキュリティを確保することができる。また、サービスの使い易さや満足度などの向上にも寄与する。
	アナログ	物事が連続的な変化を持つ性質のこと。(例:アナログ時計など)本計画においては、人の手や昔から変わらない方法で行われる従来の手法を指す。
	ウェブ会議	インターネットを利用して物理的に離れた人同士がリアルタイムで会議を行う仕組み。
	AI(エーアイ)	Artificial Intelligenceの略。「人工知能」を指し、コンピュータが人間の知能を模倣して学習、推論、問題解決を行う技術。データを基に学習し、パターンを認識して意思決定を行う能力を持っており、これによって複雑な作業を自動化し人間のように考えることができる。
	SNS(エスエヌエス)	Social Networking Serviceの略。インターネット上でユーザー(利用者)がコミュニティを形成し、情報を共有・交換するためのサービス。代表的なサービス:Facebook、X(旧Twitter)、Instagram
	SLA(エスエルイー:サービスレベル契約)	Service Level Agreementの略。サービス提供者と顧客の間で交わされる契約で、提供されるサービスの品質や性能に関する具体的な基準を定めたもの。これによりサービス提供者と顧客の間で期待されるサービスレベルが明確になり、トラブルや誤解を防ぐことができる。
	LGBTQ+(エルジービーティーキュープラス)	レズビアン(Lesbian)、ゲイ(Gay)、バイセクシュアル(Bisexual)、トランスジェンダー(Transgender)、クィアまたはクエスチョニング(QueerまたはQuestioning)など、さまざまな性の多様性を表す総称。「+」はその他の性や性的指向を含むことを示している。
	オープンデータ	誰でも自由にアクセス、利用、再配布できるデータとして国や自治体、公共機関等が提供するデータ。(例:交通情報、気象データなど)
Office(オフィス)	マイクロソフト社が開発した、文書作成(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーション作成(PowerPoint)など様々なオフィス業務を効率化するためのソフトウェア製品。	



	用語	解説
あ	オプトイン	ユーザー(利用者・顧客)が特定のサービスや情報提供を受けること、また自身の情報が活用されることに対して、自らの意思で同意すること。一方で、サービスや情報提供をユーザー自らの意思で拒否することをオプトアウトという。
	オンデマンド	利用者の要求(都合)に応じてサービスや商品を提供すること。AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」は、これまでのバスの都合(ダイヤ)に利用者が合わせていた仕組みから、利用者の要求によりバスが最寄りのバス停に到着するオンデマンド方式の公共交通。
か	ガイドライン	国や団体等が特定の目的や活動において従うべき基本的な指針や基準を示した文書。
	カタログサイト	企業や組織等が提供する商品やサービスなどの情報を一覧形式で集約して表示するサイト。
	ガバメントクラウド	デジタル庁が整備する政府共通のクラウド基盤。行政システムをクラウド上に集約することで、コスト削減や業務の効率化やデータ連携が容易になるなどのメリットが見込まれる。
	基幹システム/業務	企業の事業活動の根幹をなす業務で、企業経営に欠かせない業務及び、これに係るシステム。行政においては、市民生活に直接関係する業務及びこれに係るシステムを指す。(例:住民基本台帳業務、税関連業務、国民健康保険関連業など)
	規制緩和(改革)	既存の法律などの規制を見直し、緩和や撤廃を行うことで経済の活性化を目指す取組。
	クラウド(化)	データの保管や利用などをインターネット上で行えるサービス。(例:GoogleDrive、Microsoft OneDrive、Netflix、Youtubeなど)これまで自社でサーバなどを設置してデータ管理している状態(オンプレミス)から、クラウドサービスでの管理に移行することをクラウド化という。
	コスト	商品やサービスを清算・提供するために必要な費用や人材。
	国家戦略特区	世界で一番ビジネスをしやすい環境を作ることを目的に、地域や分野を限定し、大胆な規制・制度の緩和や税制面の優遇を行う規制改革制度。
	Copilot(コパイロット)	マイクロソフト社が開発した、AIを活用してユーザー(利用者)の作業を支援する生成AIサービス。
	コンソーシアム	複数の企業や団体が共同で特定の目的を達成するために結成された連合体。
さ	サイバーセキュリティ	インターネットやネットワークに接続されたシステムやデータを、悪意のある攻撃や不正アクセスから守るための対策や技術。(例:ウイルス対策ソフト、データ暗号化など)
	GIS(ジーアイエス)	Geographic Information Systemの略。「地理情報システム」。地図上にデータを重ね合わせて視覚的に表示するなど、地理的なデータを収集、管理、分析、表示する技術。
	GX(ジーエックス:グリーントランスフォーメーション)	環境にやさしいエネルギーへの転換を目指す取組。化石燃料の利用を減らし、再生可能エネルギーを活用することで、持続可能な社会を実現しようとするもの。



	用語	解説
さ	CDO(シーディーオー)	Chief Digital Officerの略。最高デジタル責任者を指し、企業等のデジタル戦略を統括し、DXを推進したり、デジタル技術を活用して新しい事業の仕組みを創出する役割を担う者。
	GPS(ジーピーエス)	Global Positioning Systemの略。全地球測位システムを指し、人工衛星を利用して地球上の位置を特定する技術。カーナビやスマートフォンの位置情報サービスに利用される。
	自画撮り	自分自身を撮影すること。
	市民共同型ガバナンス	行政やDX推進団体等が、市民と共に力を合わせて健全な事業実施のための管理や統治を行うこと。
	市民サクセス	行政やサービス提供者が市民の利便性や満足度を最優先に考え、市民が実際にメリットを感じられるサービス提供を目指す考え方。
	スーパーシティ	内閣府が指定する国家戦略特区の1つで、先端技術を活用して、住民が参画しながら住民目線で都市の課題を解決し、住民の生活の質を向上させることを目指した未来型都市。スーパーシティの実現を目指すプロジェクトのことをスーパーシティ構想という。大阪府・大阪市、茨城県つくば市の2区域が指定。
	ステークホルダー	企業やプロジェクトに関わる利害関係者。従業員、顧客、株主、地域社会など企業等の活動に影響を与える、または受ける全ての人や団体を指す。
	スマートシティ	デジタル技術を活用して、都市の機能(インフラ・施設等)を最適化し、企業や生活者の利便性・快適性の向上を目指す都市。
	スマートスピーカー	AIを活用して、音声操作(声)に応答して情報提供や家電の操作などを行うスピーカー型の機器。IoT製品の一種。(例:Amazon Echo、Google Homeなど)
	スマートテレビ	インターネットに接続できるテレビで、動画配信サービス(YouTubeなど)を視聴できるほかSNS機能を利用できるなど、従来のテレビにパソコンやスマートフォンの機能を統合したもの。IoT製品の一種。
	生成AI	AI技術の一種で、AIが学習したデータを基に、文章・画像・音声などを生成するサービス。(例:Copilot、ChatGPTなど)
	ゼロカーボン	CO2などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指す取組。具体的には、排出された温室効果ガスの排出を削減し、残りの排出量を森林などでの吸収や除去することで全体として排出量をゼロに擦ることを目標とするもの。
	全体最適	個々の部分が最適化される(部分最適)だけでなく、組織や地域全体が最も効率的に機能する状態。本計画においては、個別の課題解決が新たに誰かの困難を生むことなく、社会全体の幸せが向上すること。
先端的サービスの開発・構築及び規制・制度改革に関する調査事業	スーパーシティとデジタル田園健康特区において、先端的サービスの実装に必要な規制・制度改革の実現のための妥当性や合理性等に関する根拠を収集・整理するとともに、サービスの導入手順の整理など、サービスの社会実装や他地域への横展開を目的に行う調査や実証。	



	用語	解説
た	DX(ディーエックス:デジタル・トランスフォーメーション)	企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、事業の仕組みを変革するとともに、業務そのものや、組織、過程、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。(経済産業省) 本計画におけるDXの定義はP7のとおり。
	データガバナンス	企業や団体等がデータを効果的かつ安全に活用するための方針やルール、体制を整備し、データの品質やセキュリティを確保すること。
	データサイエンス	統計学や情報工学の手法を用いて、大規模なデータから有用な知見を引き出す学問分野。
	データサーバ	データを保存し、他のコンピュータにデータを提供する役割を持つコンピュータ。
	データベース	コンピュータ上でデータを効率的かつ整理された方法で保存・管理するシステム。例えば、顧客情報や商品情報を一元的に管理し、必要な時にすぐに検索・抽出できるように整理すること。
	データリスク	データが不正アクセスや改ざん、漏えいなどの脅威にさらされる可能性のこと。
	データ連携	異なるシステムやアプリ間でデータを共有し、統合・活用すること。
	データ連携基盤(都市OS)	異なる複数のシステムやサービスで蓄積されたデータを効率的に収集・変換・管理して相互間で利活用したり、データ連携により新たなサービスを創出するための基盤となる仕組み。スーパーシティの取組を進めるうえでの中核的な基盤となる。
	デジタルインフラ	広域的には、インターネットやクラウドのようなデータの転送や処理を行うための基盤を指す。茅野市におけるデジタルインフラは、データ連携基盤を活用して複数のサービスが保有する個人に関するデータを一元的に管理することで、交通インフラや水道、電力インフラなどのように、本人の同意によって必要な時に必要なデータの取得や利活用がどこでもできる環境(状態)のことを指す。
	デジタル人材(財)	デジタル技術を活用して、企業や組織などのDXを推進するための知識や技術に精通した人材(財)。
	デジタルスキル	デジタル技術を活用して問題を解決したり、コミュニケーションを行ったりするための技術。
	デジタルデバイド	インターネットやコンピュータなどの情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差。
デジタル田園健康特区	スーパーシティと同じく国家戦略特区の1つ。デジタル技術の活用によって、地域における健康・医療に関する課題解決の先駆的モデルとして新たに指定された特区。茅野市のほか、石川県加賀市、岡山県吉備中央町の3市町が1区域として指定。	
decidim(デシディム)	スペインのバルセロナ市で開発された市民参加のためのシステム。民主的な意思決定を支援するためのもので、市民が提案や意見を共有し、議論を通じて政策決定に参加するために活用されている。	



	用語	解説
た	特例措置	一般的な規則や法律に当てはまらない特定のケースに対して、特別な対策や方法を講じること。国家戦略特区における特例措置は、国家戦略特区に限り活用できる制度や、他の特区において行われた規制改革項目を特区に限って実施できるようにする制度。
な	ニーズ	顧客や消費者、市民が必要としているものや求めていること。
	二次利用	既に作成された文書やデータなどを元々の目的とは異なる新しい用途で再利用すること。
	ネットモラル	安全で健全にインターネットを利用するための倫理や道徳。(例:他人のプライバシーを尊重する、誹謗中傷をしないなど)
	ネットワーク(化)	複数のコンピュータや機器を相互に接続し、データのやり取りができるようにする仕組み。
は	PIA(ピーアイイー)	Privacy Impact Assessmentの略。プライバシー影響評価を指す。特定のサービスにおいて想定される個人情報及びプライバシーに係るリスク分析、評価、対応検討を行う手法。これにより、サービスの透明性向上、信頼性向上、リスク管理とコストの適正化が期待できる。
	ビジネスモデル	企業等がどのようにして価値を創造し、顧客に提供し、利益を上げるかを示す枠組み。
	標準化	製品やサービスの規格や手順を統一し、品質や互換性を確保すること。
	〇〇ファースト	〇〇を中心とし、最優先に活用したり考える方針や考え方。ヒューマンファースト⇒人(市民)中心、人(市民)優先
	フィルタリング	特定の情報やデータを選別し、必要なものだけを取り出す技術や手法。
	プッシュ配信	スマートフォンやパソコンに通知を送信して、ユーザー(利用者・顧客)に情報を届ける手法。
	部分最適	全体の中の一部に焦点を当てて最適化を図ること。課題や問題が特定しやすく迅速な改善が見込まれる一方で、一時的な問題解決にしかならないことや、他の部分に悪影響をあたえることで全体の効率化や生産性が低下するリスクがある。
	ブラッシュアップ	事業内容やサービス、能力などをさらに向上するために改善や見直しを行うこと。
	プラットフォーム	製品やサービスが動作する基盤や環境のこと。
	プロモーション	製品やサービスの認知度を高め、購買意欲を刺激したり利用を促すための活動。広告、セール、イベント、キャンペーンなど。
	プロンプト	生成AIに対して与える指示や質問のこと。



	用語	解説
は	ポータルサイト	インターネット上の様々な情報やサービスへの入り口となるサイト。(例:Yahoo!, Googleなど)
ま	マーケティング	製品やサービスを顧客に提供し、価値を創り、浸透させるための活動全般を指す。市場調査、広告、販売戦略など。
	未来型ゆい(結い)	デジタル技術やデータの活用により、「住む人」「訪れる人」「関わる人」の力をつなげ、まちの力にする新しい結い(人と人とのつながりや支え合い)の形。
	メタバース	インターネット上に構築された三次元の仮想空間。ユーザー(利用者)はアバター(インターネット上の分身となるキャラクターやアイコン)を使って仮想空間内で活動し、他のユーザーと交流することができる。
ら	ライフステージ	人生の中での特定の段階や時期。(例:幼少期、学生時代など)
	リテラシー	特定の分野に関する知識や理解、分析、活用する能力。
	リビングラボ	市民、企業、行政が協力して社会課題の解決や新しい価値の創造を目指す実践的な場。生活空間(リビング)に近い場で行われることからリビングラボと呼ばれる。
	レコメンド	利用者の好みに基づいて商品やサービスを推薦すること。オンラインショップなどで、購入履歴や好みを分析して最適な商品を提案する手法。
	LoGoフォーム	自治体職員が電子申請やアンケートなどのフォーム(入力画面)を作成・管理できる自治体専用のプラットフォーム。
わ	ワーキンググループ	特定の課題やプロジェクトに取り組むために組織された専門知識を持つメンバーからなるチーム。
	ワークカレッジ	特定の職業スキルなどを学ぶための学校やプログラム。
	ワークショップ	参加者が実際に手を動かしながら学ぶ形式のセミナーや講習会。